

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウキョウコクサイダイガク 学校法人 東京国際大学							
フリガナ大学の名称	トウキョウコクサイダイガク 東京国際大学 (Tokyo International University)							
大学本部の位置	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号							
大学の目的	東京国際大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」を基調として、広い教養及び社会に密接な専門学術を教授・研究し、人類の福祉と文化の発展に貢献し得る知性と勇気と先見性豊かな人材を育成することを目的及び使命としている。							
新設学部等の目的	志願者動向を踏まえ、経済学部及び言語コミュニケーション学部の定員シフトを図り、入学者数の適正化を図る観点から実施するものである。なお、今回の定員増は、他学部から減じた定員を振り返るものであり、大学全体の収容定員に変更はない。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及 び開設年次	所在地
	経済学部 (School of Economics) 経済学科 (Department of Economics)	4	515 (475)	—	2,060 (1,900)	学士(経済学) (Bachelor of Arts in Economics) 学士(デジタルビジ ネス・イノベーション) (Bachelor of Science in Digital Business and Innovation)	令和6年4月 第1年次	東京都豊島区東池袋 4丁目42番31号
	言語コミュニケーション学部 (School of Language Communication) 英語コミュニケーション学科 (Department of English Communication)	4	210 (250)	—	840 (1,000)	学士(言語コミュニ ケーション学) (Bachelor of Arts in Language Communication)	令和6年4月 第1年次	東京都豊島区東池袋 4丁目42番31号
	計							
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の 変更等)	該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
		科目	科目	科目	科目	単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	経済学部 経済学科		人	人	人	人	人	人	人
				30 (30)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	42 (42)	0 (0)
既 設	言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科		9 (9)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	101 (101)
	計		39 (39)	13 (13)	10 (10)	1 (1)	63 (63)	0 (0)	— (—)
既 設	商学部 商学科		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	96 (96)
	商学部 経営学科		14 (14)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	95 (95)
既 設	国際関係学部 国際関係学科		15 (15)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	132 (132)
	国際関係学部 国際メディア学科		7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	72 (72)
既 設	人間社会学部 福祉心理学科		7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	60 (60)
	人間社会学部 人間スポーツ学科		8 (8)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	79 (79)
既 設	人間社会学部 スポーツ科学科		7 (7)	2 (2)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	83 (83)
	医療健康学部 理学療法学科		7 (7)	9 (9)	5 (4)	0 (0)	21 (20)	0 (0)	18 (18)
既 設	GTI (Global Teaching Institute)		0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	0 (0)
	JLI (Japanese Language Institute)		1 (1)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	2 (2)
既 設	教育研究推進機構		3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	26 (26)
	日本文化研究所		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
既 設	計		80 (80)	33 (33)	76 (75)	0 (0)	189 (188)	0 (0)	— (—)
	合 計		119 (119)	46 (46)	86 (85)	1 (1)	252 (251)	0 (0)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		139 (139)		28 (28)		167 (167)		
	技 術 職 員		— (—)		— (—)		— (—)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		— (—)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員		10 (10)		47 (47)		57 (57)		
計		150 (150)		75 (75)		225 (225)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	87,288㎡ (77,288㎡)	0㎡		0㎡		87,288㎡ (77,288㎡)		
	運 動 場 用 地	201,978㎡	0㎡		0㎡		201,978㎡		
	小 計	289,266㎡ (279,266㎡)	0㎡		0㎡		289,266㎡ (279,266㎡)		
	そ の 他	2,675㎡	0㎡		0㎡		2,675㎡		
	合 計	291,941㎡ (281,941㎡)	0㎡		0㎡		291,941㎡ (281,941㎡)		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	93,117㎡ (61,195㎡)					93,117㎡ (61,195㎡)			

・校舎敷地は下段が
現有面積、上段が池
袋キャンパス（令和
5年9月完成予定）を
含む。
・運動場用地は坂戸
キャンパス、河川敷
校地を含む。

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		()	()	()	()	()	()		
	計	()	()	()	()	()	()		
図書館		面積 ㎡	閲覧座席数		収納可能冊数				
体育館		面積 ㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・大学全体 ・図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
	図書購入費	62,538千円	62,538千円	62,538千円	62,538千円	62,538千円	—	—	
	設備購入費	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,410千円	1,160千円	1,160千円	1,160千円	—千円	—千円	商学部・人間社会学部福祉心理学科	
		1,420千円	1,170千円	1,170千円	1,170千円	—千円	—千円	経済学部・国際関係学部	
		1,570千円	1,520千円	1,520千円	1,520千円	—千円	—千円	経済学部・国際関係学部Eトラック	
		1,470千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	—千円	—千円	言語コミュニケーション学部	
1,570千円		1,320千円	1,320千円	1,320千円	—千円	—千円	人間社会学部人間スポーツ学科・人間社会学部スポーツ科学科		
1,810千円		1,560千円	1,560千円	1,560千円	—千円	—千円	医療健康学部		
1,110千円		860千円	860千円	—千円	—千円	—千円	商学研究科・経済学研究科・国際関係学研究科		
1,570千円		1,520千円	1,520千円	—千円	—千円	—千円	商学研究科・経済学研究科・国際関係学研究科Eトラック		
1,190千円	940千円	—千円	—千円	—千円	—千円	臨床心理学研究科(前期)			
1,140千円	890千円	890千円	—千円	—千円	—千円	臨床心理学研究科(後期)			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入							

大学等の名称	東京国際大学 (Tokyo International University)							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	商学部					0.90		
	商学科	4	100	—	400	0.76	昭和40年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1
	経営学科	4	160	—	480	1.01	平成25年度	
	経済学部					0.98		
	経済学科	4	475	—	1,860	0.98	平成元年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号
	言語コミュニケーション学部					0.83		
	英語コミュニケーション学科	4	250	—	980	0.83	平成16年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号
	国際関係学部					0.92		
	国際関係学科	4	310	—	1,175	0.95	平成7年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号
	国際メディア学科	4	60	—	240	0.77	平成19年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1
	人間社会学部					0.95		
	福祉心理学科	4	45	—	140	0.92	平成7年度	埼玉県川越市の場2509
	人間スポーツ学科	4	245	—	935	0.91	平成23年度	
	スポーツ科学科	4	210	—	810	0.99	平成24年度	
	医療健康学部					0.87		
	理学療法学科	4	80	—	240	0.87	令和3年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1
	大学院商学研究科					0.98		
	商学専攻(博士前期課程)	2	30	—	60	0.98	昭和61年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号
	商学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	1.11	昭和63年度	
	大学院経済学研究科					0.17		
経済学専攻(博士前期課程)	2	20	—	40	0.17	平成6年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号	
経済学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	0.00	平成14年度		
大学院国際関係学研究科					0.52			
国際関係学研究専攻修士課程	2	20	—	40	0.52	昭和59年度	東京都豊島区東池袋4丁目42番31号	
大学院臨床心理学研究科					0.26			
臨床心理学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	0.26	平成13年度	埼玉県川越市の場2509	
臨床心理学専攻(博士後期課程)	3	2	—	6	0.16	平成13年度		
附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人東京国際大学 設置認可等に関わる組織の移行表

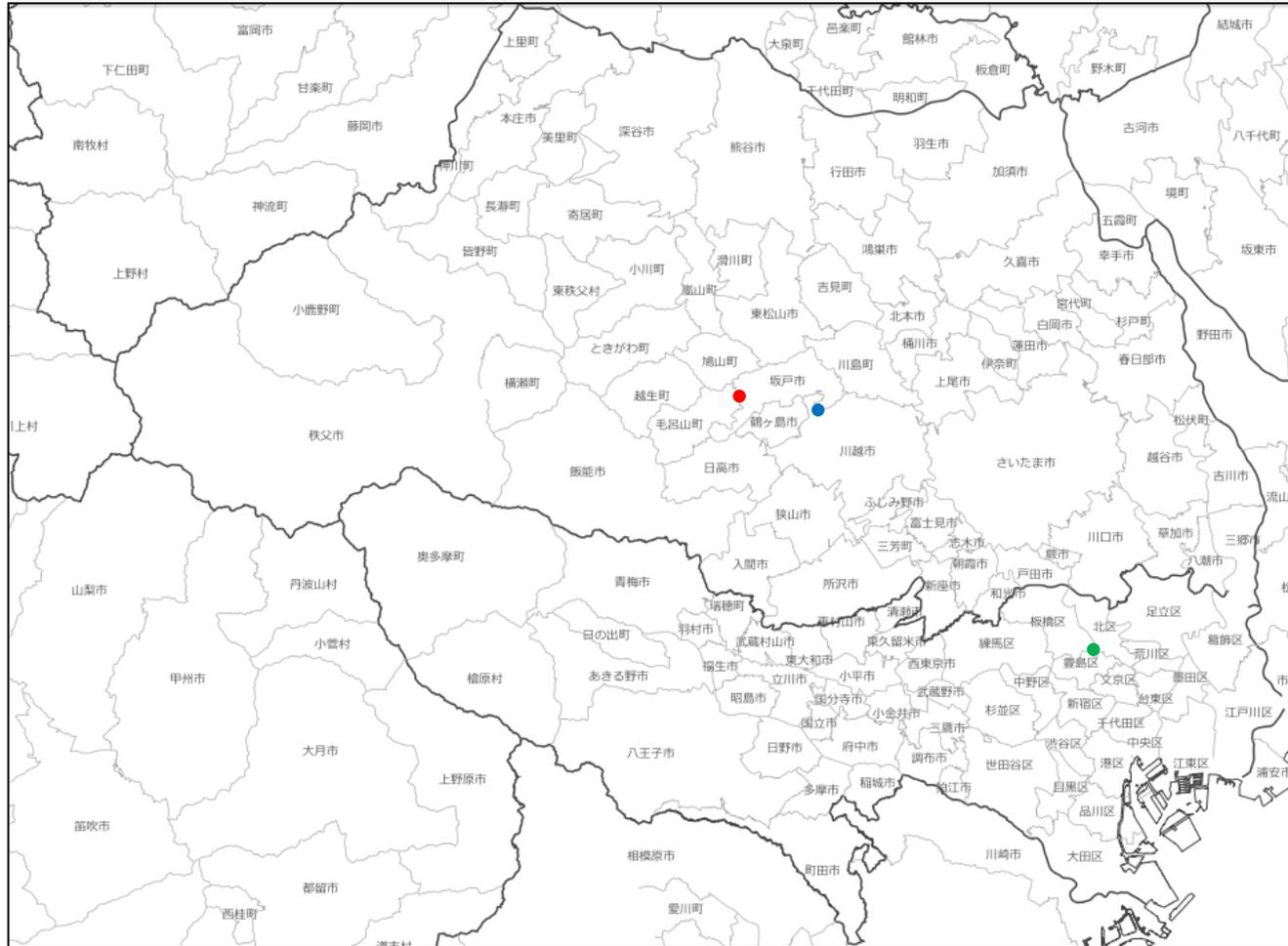
令和5年度(2023年度) 入学定員 編入学定員 収容定員

令和6年度(2024年度) 入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	160	—	640
経済学部			
経済学科	475	—	1,900
国際関係学部			
国際関係学科	310	—	1,240
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	45	—	180
人間スポーツ学科	270	—	1,080
スポーツ科学科	240	—	960
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	250	—	1,000
医療健康学部			
理学療法学科	80	—	320
計	1,990	—	7,960
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	160	—	640
経済学部			
経済学科	515	—	2,060 定員変更(40)
国際関係学部			
国際関係学科	310	—	1,240
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	45	—	180
人間スポーツ学科	270	—	1,080
スポーツ科学科	240	—	960
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	210	—	840 定員変更(△40)
医療健康学部			
理学療法学科	80	—	320
計	1,990	—	7,960
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214

埼玉県・東京都内における位置関係のわかる図面

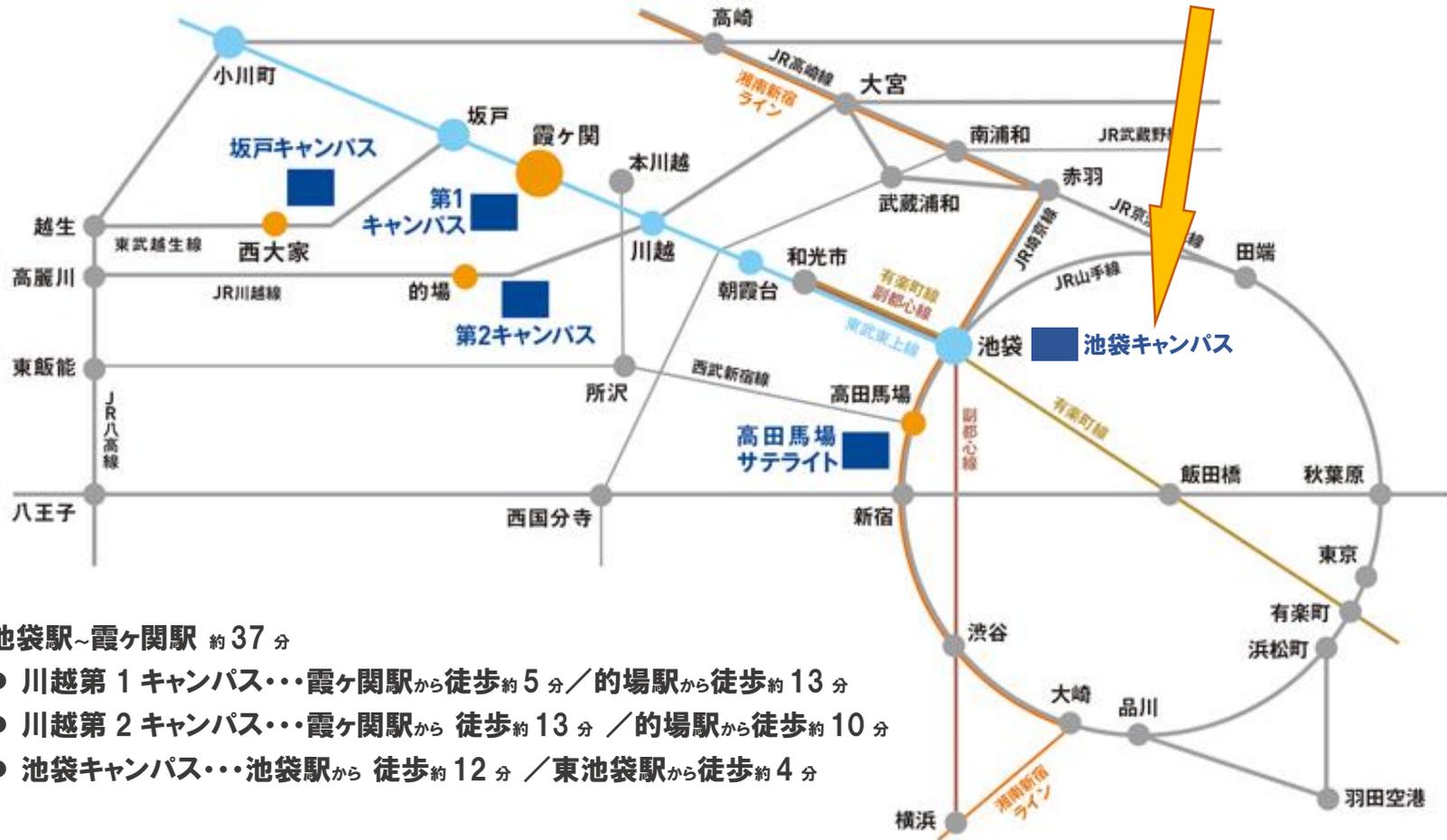


- 坂戸キャンパス(運動施設) ● 池袋キャンパス(2023年9月開校予定、経済学部・言語コミュニケーション学部・国際関係学部国際関係学科)
- 川越第1キャンパス(商学部・国際関係学部国際メディア学科・医療健康学部)/川越第2キャンパス(人間社会学部)

国土地理院 地理院地図(電子国土Web、情報リスト:白地図)

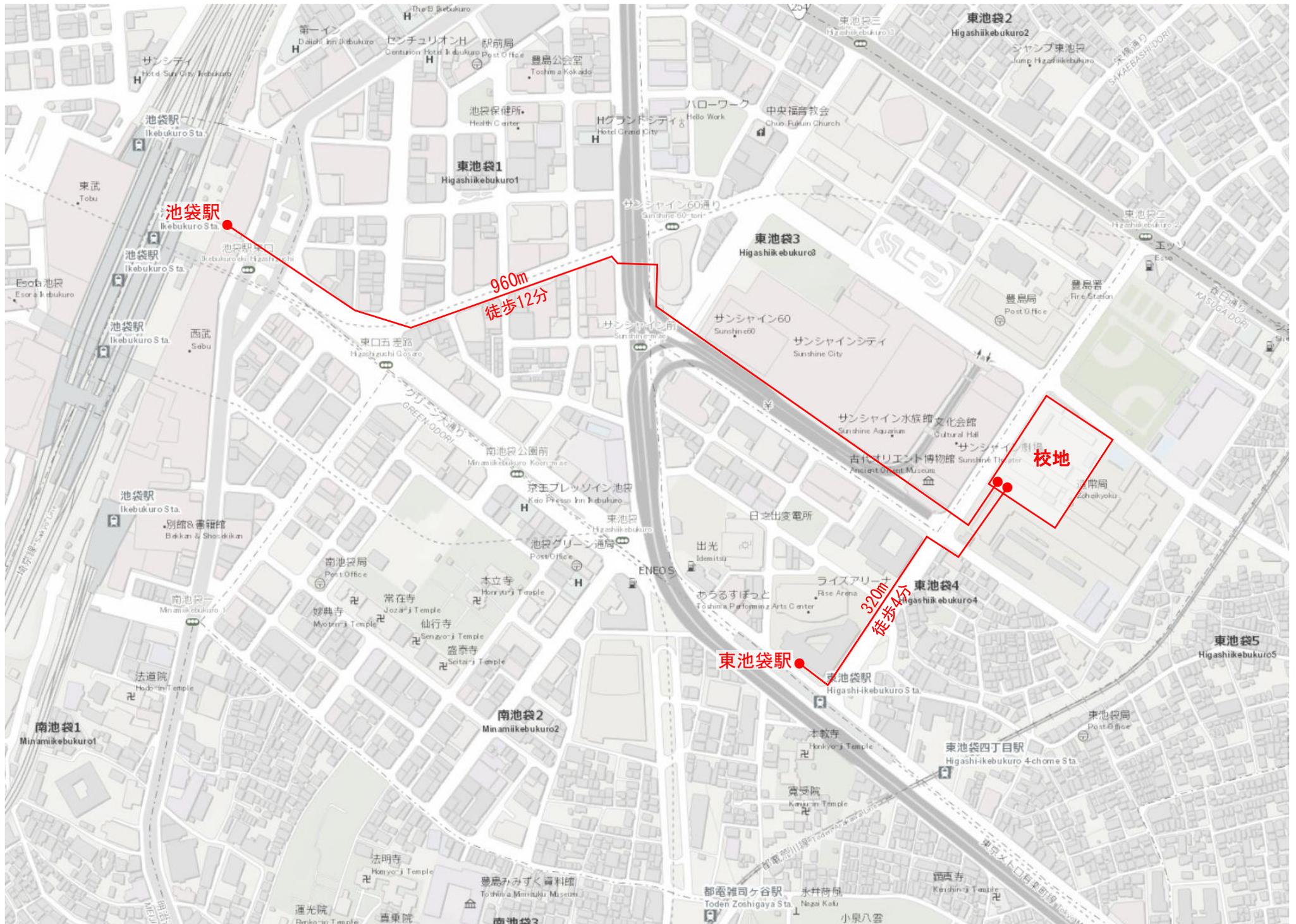
最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

経済学部
言語コミュニケーション学部



池袋駅～霞ヶ関駅 約 37 分

- 川越第 1 キャンパス…霞ヶ関駅から徒歩約 5 分 / 的場駅から徒歩約 13 分
- 川越第 2 キャンパス…霞ヶ関駅から 徒歩約 13 分 / 的場駅から徒歩約 10 分
- 池袋キャンパス…池袋駅から 徒歩約 12 分 / 東池袋駅から徒歩約 4 分



図面 - 3

校舎の平面図（川越第1キャンパス、池袋キャンパス）・・・省略

2以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの状況

		区分		オ 一部の別別校地で教育研究を行う場合											
学部	川越第1キャンパス					池袋キャンパス					学部及び校地ごとの教育内容	備考			
	最大受入定員	収容定員	在学者数	専任教員	GTI	校地面積 校舎面積	最大受入定員	収容定員	在学者数	専任教員			GTI	校地面積 校舎面積	
経済学部	1,900人	1,900人	1,841人	42人 (42人)	39人 (39人)	36,534㎡ 42,152㎡ (42,152㎡)	0人	0人	0人	0人 (0人)	0人 (0人)	10,000㎡ 31,922㎡ (31,922㎡)	経済学部経済学科Eトラック・プログラムの学生は、1年次の第1セメスターを川越第1キャンパスで学ぶ。	川越第1キャンパスと池袋キャンパスのそれぞれで授業を担当する教員は3人となる。	
言語コミュニケーション学部	1,000人	1,000人	819人	21人 (21人)			0人	0人	0人	0人 (0人)			2023年9月より池袋キャンパスの収容定員が1,000人となる。		川越第1キャンパスと池袋キャンパスのそれぞれで授業を担当するGTI教員は15人となる。
既設学部等	2,840人	2,840人	2,314人	150人 (149人)			0人	0人	0人	0人 (0人)			2023年9月より国際関係学部国際関係学科が池袋キャンパス移転となる。池袋キャンパスの同収容定員が1,240人となる。		
計	5,740人	5,740人	4,974人	252人 (251人)		0人	0人	0人	0人 (0人)						

※収容定員欄には、収容定員の設定がされていない場合は、「設定なし」と記載すること。
 ※専任教員欄、校舎面積欄の()は開設時、()外は完成時の数値を記載すること。
 ※専任教員数について、同一の専任教員が複数の校地で授業を担当する場合には、ダブルカウントし、ダブルカウントする教員の内訳を備考欄に記載すること。

施設・設備等		第一キャンパス	池袋キャンパス	備考
学長室		1室	1室	
会議室		11室	11室	
事務室		18室	13室	
事務職員		100人	0人	
研究室		181室	94室	
教室	講義室	85室	61室	
	演習室	8室	0室	
	実験・実習室	2室	0室	
図書館	4,508㎡ 362,642冊	1,665㎡ 22,000冊	池袋キャンパスの冊数は移設予定数	
図書館専任職員		1人	1人	
医務室		1室	1室	
学生自習室		5室	2室	
学生控室		9室	1室	
運動場		無	無	
体育館		有	無	

※2以上の校地で教育を行うことを前提とした申請についてのみ本様式の記載を求めるものです。
 ※研究室が専任教員1人当たり1室でない場合には、備考欄に、研究室の利用形態を記述すること。
 ※運動場が校地の隣接地にない場合には、その旨を備考欄に記述すること。

2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況

学部名称	番号	氏名	年齢	所属する校地	勤務状況
経済学部 経済学科	1	アンボンサー サミュエル		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Principles of Economics)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(World Economy・Statistics I)の教育 ・学部会議の実施曜日にZoomで参加する。オフィスアワーでは学生の要望により対面のほかZoomを併用し、どちらのキャンパスにおいても調整可能とする。
経済学部 経済学科	2	ランガ ハンディカ		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Financial Accounting)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Principles of Economics)の教育 ・学部会議の実施曜日にZoomで参加する。オフィスアワーでは学生の要望により対面のほかZoomを併用し、どちらのキャンパスにおいても調整可能とする。
経済学部 経済学科	3	レズワン ロクサナ		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Principles of Management・Organizational Psychology)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Principles of Management)の教育 ・学部会議の実施曜日にZoomで参加する。オフィスアワーでは学生の要望により対面のほかZoomを併用し、どちらのキャンパスにおいても調整可能とする。
GTI 語学専任教員	1	ヒューズ デボン		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Communication Core II ×2・Intermediate Reading and Writing B)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育

2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況

学部名称	番号	氏名	年齢	所属する校地	勤務状況
GTI 語学専任教員	2	ジョーンズ トレーシー		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(Communication Basic II・Reading & Writing・Academic Listening and Speaking B)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	3	ブソー アレクシス		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(English Project Workshop・Current Topics)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(IT Literacy×2)の教育
GTI 語学専任教員	4	アオキ ペドロ		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Current Topics・Contemporary Global Issues and Japan・Intercultural Business Negotiation)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	5	オデル レイチェル		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(Communication Basic II・Communication Core II×2)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	6	コープズ アイダ		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Oral Communication・Current Topics・Media and Communication)の教育 ・川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育

2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況

学部名称	番号	氏名	年齢	所属する校地	勤務状況
GTI 語学専任教員	7	ローベズ ビクター		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Communication Core II × 2・English Project Workshop)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	8	バビット ハニーン		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(English Production II × 2)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Communication Basic II・Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	9	ビショフ マイケル		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Intermediate Listening and Speaking B)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(English Comprehension II・Analytical Reading and Composition I × 2)の教育
GTI 語学専任教員	10	ポレン ケリー		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(English Production II × 2)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I × 2)の教育

2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況

学部名称	番号	氏名	年齢	所属する校地	勤務状況
GTI 語学専任教員	11	サターフィールド ホーリー		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(Communication Basic II・English for Tourism×2・Contemporary Global Issues and Japan)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	12	ガティカ アレクサンダー		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：2日/週 担当授業科目(Communication Core II×2・Introduction to American Society)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	13	ラムジー ロビン		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：4日/週 担当授業科目(Communication Basic II×2・Basic Speaking II×2)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育
GTI 語学専任教員	14	ヤマダ アンドリュー		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(English Production II×2)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(IT Literacy×2)の教育
GTI 語学専任教員	15	サクラメント アレクサンドラ		池袋キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> 池袋キャンパス：3日/週 担当授業科目(English Comprehension II×2・Basic Writing II×2)の教育 川越第1キャンパス：2日/週 担当授業科目(Analytical Reading and Composition I)の教育

※上記は2023年9月以降の体制である。

東京国際大学学則（案）

（昭和40年4月1日制定）

改正 昭和44年 9月22日 昭和45年 4月 1日
昭和50年 4月 1日 昭和51年 4月 1日
昭和52年 4月 1日 昭和53年 4月 1日
昭和54年 4月 1日 昭和56年 4月 1日
昭和57年 4月 1日 昭和58年 4月 1日
昭和60年 4月 1日 昭和61年 4月 1日
昭和62年 4月 1日 昭和63年 4月 1日
平成元年 4月 1日 平成 2年 4月 1日
平成 3年 4月 1日 平成 3年 7月 1日
平成 4年 4月 1日 平成 5年 4月 1日
平成 6年 4月 1日 平成 7年 4月 1日
平成 7年10月 1日 平成 8年 4月 1日
平成 9年 4月 1日 平成10年 4月 1日
平成11年 4月 1日 平成11年 9月 1日
平成12年 4月 1日 平成13年 4月 1日
平成13年 9月 1日 平成14年 4月 1日
平成15年 4月 1日 平成16年 4月 1日
平成17年 4月 1日 平成18年 4月 1日
平成19年 4月 1日 平成20年 4月 1日
平成21年 4月 1日 平成22年 4月 1日
平成23年 4月 1日 平成24年 4月 1日
平成25年 4月 1日 平成25年11月 1日
平成26年 4月 1日 平成 26年 5月 28日
平成27年 3月11日 平成 27年 5月 27日
平成27年10月14日 平成 28年 3月 16日
平成28年4月28日 平成 28年 5月 26日
2016年10月13日 2016年 12月 5日
2017年3月16日 2017年 5月 25日
2017年7月3日 2017年 10月 23日
2017年12月7日 2018年 3月 15日
2018年5月24日 2018年 10月 25日
2019年1月30日 2019年 3月 14日
2019年5月30日 2019年 10月 24日
2019年12月20日 2020年 3月 12日
2020年5月28日 2020年 10月 22日
2020年12月17日 2021年 3月 11日
2021年5月27日 2021年 10月 28日
2022年3月10日 2022年 5月 27日
2022年12月23日 2023年 3月 17日
2023年5月26日

第1条 ～ 第7条（略）

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
商 学 部	商 学 科	100名	400名
	経 営 学 科	160名	640名
経 済 学 部	経 済 学 科	515名	2,060名
国 際 関 係 学 部	国 際 関 係 学 科	310名	1,240名
	国 際 メ デ ィ ア 学 科	60名	240名
人 間 社 会 学 部	福 祉 心 理 学 科	45名	180名
	人 間 ス ポ ー ツ 学 科	245名	980名
	ス ポ ー ツ 科 学 科	210名	840名
言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 部	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	210名	840名
医 療 健 康 学 部	理 学 療 法 学 科	80名	320名
計		1,935名	7,740名

第9条 ～ 第55条 (略)

附 則 (本件収容定員の変更に関係しないもの) (略)

2023年5月26日改正附則

1. この改正学則は、2024年4月1日から施行する。
2. 第8条の規定にかかわらず、2024年度から2026年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次の通りとする。

学 部	学 科	2024年度	2025年度	2026年度
商学部	商学科	400名	400名	400名
	経営学科	560名	640名	640名
経済学部	経済学科	1,940名	1,980名	2,020名
国際関係学部	国際関係学科	1,240名	1,240名	1,240名
	国際メディア学科	240名	240名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	160名	180名	180名
	人間スポーツ学科	950名	965名	980名
	スポーツ科学科	820名	830名	840名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	920名	880名
医療健康学部	理学療法学科	320名	320名	320名
計		7,590名	7,715名	7,740名

別表1 (第5章 第13条) (略)

別表2 (第7章 第21条) (略)

学則の変更事項を記載した書類

経済学部経済学科及び言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の収容定員変更に伴い、学則を次のとおり変更する。

1. 第 8 条の表中、経済学部経済学科及び言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員数、収容定員数を変更する。また、これらの変更に伴い「計」欄を変更する。

(事由) 当該学部・学科の収容定員数変更後の入学定員数、収容定員数を明確にするため。

2. 附則に次の事項を加える。

① 施行年月日を明記する。

② 2024 年度から 2026 年度までの年度ごとの収容定員を明記する。

(事由) 施行日を明確にするため。

(事由) 完成前年度までの収容定員の変化を明確にするため。

東京国際大学学則 新旧比較対照表（案）

1. 審議事項：

- 1) 経済学部、言語コミュニケーション学部の入学定員の変更を行う。
- 2) 附則を定める。

2. 比較対照表：

新	旧																																																																																																																																																
<p>○東京国際大学学則</p> <p>第1章 大学の目的及び使命</p> <p>（省略）第1条～第7条</p> <p>（収容定員）</p> <p>第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">商学部</td> <td>商学科</td> <td>100名</td> <td>400名</td> </tr> <tr> <td>経営学科</td> <td>160名</td> <td>640名</td> </tr> <tr> <td>経済学部</td> <td>経済学科</td> <td style="color: red;">515名</td> <td style="color: red;">2,060名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際関係学部</td> <td>国際関係学科</td> <td>310名</td> <td>1,240名</td> </tr> <tr> <td>国際メディア学科</td> <td>60名</td> <td>240名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間社会学部</td> <td>福祉心理学科</td> <td>45名</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>人間スポーツ学科</td> <td>245名</td> <td>980名</td> </tr> <tr> <td>スポーツ科学科</td> <td>210名</td> <td>840名</td> </tr> <tr> <td>言語コミュニケーション学部</td> <td>英語コミュニケーション学科</td> <td style="color: red;">210名</td> <td style="color: red;">840名</td> </tr> <tr> <td>医療健康学部</td> <td>理学療法学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,935名</td> <td>7,740名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（以下省略）</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 この改正学則は、2024年4月1日から施行する。 2 第8条の規定にかかわらず、2024年度から2026年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次のとおりとする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>2024年度</th> <th>2025年度</th> <th>2026年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">商学部</td> <td>商学科</td> <td>400名</td> <td>400名</td> <td>400名</td> </tr> <tr> <td>経営学科</td> <td>560名</td> <td>640名</td> <td>640名</td> </tr> <tr> <td>経済学部</td> <td>経済学科</td> <td>1,940名</td> <td>1,980名</td> <td>2,020名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際関係学部</td> <td>国際関係学科</td> <td>1,240名</td> <td>1,240名</td> <td>1,240名</td> </tr> <tr> <td>国際メディア学科</td> <td>240名</td> <td>240名</td> <td>240名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間社会学部</td> <td>福祉心理学科</td> <td>160名</td> <td>180名</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>人間スポーツ学科</td> <td>950名</td> <td>965名</td> <td>980名</td> </tr> <tr> <td>スポーツ科学科</td> <td>820名</td> <td>830名</td> <td>840名</td> </tr> <tr> <td>言語コミュニケーション学部</td> <td>英語コミュニケーション学科</td> <td>960名</td> <td>920名</td> <td>880名</td> </tr> <tr> <td>医療健康学部</td> <td>理学療法学科</td> <td>320名</td> <td>320名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>7,590名</td> <td>7,715名</td> <td>7,740名</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	入学定員	収容定員	商学部	商学科	100名	400名	経営学科	160名	640名	経済学部	経済学科	515名	2,060名	国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名	国際メディア学科	60名	240名	人間社会学部	福祉心理学科	45名	180名	人間スポーツ学科	245名	980名	スポーツ科学科	210名	840名	言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	210名	840名	医療健康学部	理学療法学科	80名	320名	計		1,935名	7,740名	学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度	商学部	商学科	400名	400名	400名	経営学科	560名	640名	640名	経済学部	経済学科	1,940名	1,980名	2,020名	国際関係学部	国際関係学科	1,240名	1,240名	1,240名	国際メディア学科	240名	240名	240名	人間社会学部	福祉心理学科	160名	180名	180名	人間スポーツ学科	950名	965名	980名	スポーツ科学科	820名	830名	840名	言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	920名	880名	医療健康学部	理学療法学科	320名	320名	320名	計		7,590名	7,715名	7,740名	<p>○東京国際大学学則</p> <p>第1章 大学の目的及び使命</p> <p>（省略）第1条～第7条</p> <p>（収容定員）</p> <p>第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">商学部</td> <td>商学科</td> <td>100名</td> <td>400名</td> </tr> <tr> <td>経営学科</td> <td>160名</td> <td>640名</td> </tr> <tr> <td>経済学部</td> <td>経済学科</td> <td style="color: blue;">475名</td> <td style="color: blue;">1,900名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国際関係学部</td> <td>国際関係学科</td> <td>310名</td> <td>1,240名</td> </tr> <tr> <td>国際メディア学科</td> <td>60名</td> <td>240名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間社会学部</td> <td>福祉心理学科</td> <td>45名</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>人間スポーツ学科</td> <td>245名</td> <td>980名</td> </tr> <tr> <td>スポーツ科学科</td> <td>210名</td> <td>840名</td> </tr> <tr> <td>言語コミュニケーション学部</td> <td>英語コミュニケーション学科</td> <td style="color: blue;">250名</td> <td style="color: blue;">1,000名</td> </tr> <tr> <td>医療健康学部</td> <td>理学療法学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,935名</td> <td>7,740名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（以下省略）</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	商学部	商学科	100名	400名	経営学科	160名	640名	経済学部	経済学科	475名	1,900名	国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名	国際メディア学科	60名	240名	人間社会学部	福祉心理学科	45名	180名	人間スポーツ学科	245名	980名	スポーツ科学科	210名	840名	言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250名	1,000名	医療健康学部	理学療法学科	80名	320名	計		1,935名	7,740名
学部	学科	入学定員	収容定員																																																																																																																																														
商学部	商学科	100名	400名																																																																																																																																														
	経営学科	160名	640名																																																																																																																																														
経済学部	経済学科	515名	2,060名																																																																																																																																														
国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名																																																																																																																																														
	国際メディア学科	60名	240名																																																																																																																																														
人間社会学部	福祉心理学科	45名	180名																																																																																																																																														
	人間スポーツ学科	245名	980名																																																																																																																																														
	スポーツ科学科	210名	840名																																																																																																																																														
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	210名	840名																																																																																																																																														
医療健康学部	理学療法学科	80名	320名																																																																																																																																														
計		1,935名	7,740名																																																																																																																																														
学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度																																																																																																																																													
商学部	商学科	400名	400名	400名																																																																																																																																													
	経営学科	560名	640名	640名																																																																																																																																													
経済学部	経済学科	1,940名	1,980名	2,020名																																																																																																																																													
国際関係学部	国際関係学科	1,240名	1,240名	1,240名																																																																																																																																													
	国際メディア学科	240名	240名	240名																																																																																																																																													
人間社会学部	福祉心理学科	160名	180名	180名																																																																																																																																													
	人間スポーツ学科	950名	965名	980名																																																																																																																																													
	スポーツ科学科	820名	830名	840名																																																																																																																																													
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	920名	880名																																																																																																																																													
医療健康学部	理学療法学科	320名	320名	320名																																																																																																																																													
計		7,590名	7,715名	7,740名																																																																																																																																													
学部	学科	入学定員	収容定員																																																																																																																																														
商学部	商学科	100名	400名																																																																																																																																														
	経営学科	160名	640名																																																																																																																																														
経済学部	経済学科	475名	1,900名																																																																																																																																														
国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名																																																																																																																																														
	国際メディア学科	60名	240名																																																																																																																																														
人間社会学部	福祉心理学科	45名	180名																																																																																																																																														
	人間スポーツ学科	245名	980名																																																																																																																																														
	スポーツ科学科	210名	840名																																																																																																																																														
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250名	1,000名																																																																																																																																														
医療健康学部	理学療法学科	80名	320名																																																																																																																																														
計		1,935名	7,740名																																																																																																																																														

学則の変更の趣旨等を記載した書類

(収容定員変更に係る学則変更)

東京国際大学



目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容.....	3
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性.....	3
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容.....	5
3.1. 教育課程の変更内容.....	5
3.1.1. 経済学部 経済学科.....	5
3.1.2. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科.....	6
3.2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容.....	7
3.2.1. 全学的取組.....	7
3.2.2. 経済学部 経済学科.....	8
3.2.3. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科.....	9
3.3. 教員組織の変更内容.....	10
3.4. 大学全体の施設・設備の変更内容.....	11
4. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画.....	12

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和6年度から、東京国際大学学則第8条に定める、経済学部経済学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員及び収容定員を以下のように変更する（表1）。経済学科は入学定員を40人増やすことで、現在の475人から515人へと増員する。英語コミュニケーション学科については入学定員を40人減じ、入学定員を現在の250人から210人へと減員する。大学全体では入学定員、収容定員に変動はない。

表1. 令和6年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	475人	1,900人	515人	2,060人	+40人	+160人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250人	1,000人	210人	840人	-40人	-160人

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

今回の収容定員変更は、両学科の志願動向を鑑みた入学定員の調整である。

減員を計画している英語コミュニケーション学科では、近年志願者が減少傾向にある（表2）。

表2. 英語コミュニケーション学科の志願動向

入学年度	【延べ人数】					【実人数】 ※学科間で併願している受験生を案分				
	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
① 入学定員	230	230	250	250	250	230	230	250	250	250
② 志願者数	1,130	1,421	999	758	722	701	708	677	420	458
③ 入学者数	227	225	237	172	231	227	225	237	172	231
④ 志願倍率 ②/①	4.91	6.18	4.00	3.03	2.89	3.05	3.08	2.71	1.68	1.83

本学の英語コミュニケーション学科は国際社会で自在にコミュニケーションを図ることが可能な人材養成を目指し、アメリカにある姉妹校（ウィラメット大学）への留学プログラムなど、使える英語力を身につけるための様々な教育を提供している。

しかし、新型コロナウイルスの蔓延をきっかけとして、近年は全国的に外国語・国際系統学部への志願者が減少しており、本学についても同様の状況にある。コロナの影響が緩和しつつあった令和5年度入試においても、志願動向は回復が見られず、当面この傾向は変わらないと考えられる。

志願者の減少に伴い入学試験の合格率は上昇が続き、令和5年度は90%を超えている（表3）。適正な入学試験を実施していくには定員を減ずることが必要と考え、今回の収容定員変更を企図している。

表3. 英語コミュニケーション学科の合格率

入学年度		【延べ人数】					【実人数】※学科間で併願している受験生を案分				
		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
①	受験者数	1,087	1,350	945	709	682	679	680	641	402	441
②	合格者数	444	607	725	623	624	343	369	528	370	416
③	合格率 ②/①	40.8%	45.0%	76.7%	87.9%	91.5%	50.5%	54.2%	82.5%	92.1%	94.4%

一方、経済学科の志願動向は過去5年間、堅調に推移している（表4）。

本学の経済学科には日本語での授業を中心に展開するJトラック・プログラムに加え、英語のみで学位取得が可能なEトラック・プログラムを設けている。このEトラック・プログラムによって、日本で学ぶ意欲をもつ多くの外国人留学生を惹きつけることに成功し、令和5年5月時点で経済学部在籍するEトラック・プログラム生は903名、学生の国籍は53ヶ国に及ぶ。このように世界から多様な価値観をもつ学生が参集する当学科は、建学の精神である「公德心を体した真の国際人の養成」を実現する一翼を担っている。

表4. 経済学科の志願動向

※令和5年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試のEトラック・プログラム入学定員170人は除外）

入学年度		【延べ人数】					【実人数】※学科間で併願している受験生を案分				
		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
①	入学定員	435	435	475	475	305	435	435	475	475	305
②	志願者数	1,625	2,752	2,103	1,993	1,642	944	1,269	1,329	1,068	896
③	入学者数	417	390	471	446	448	417	390	471	446	448
④	志願倍率 ②/①	3.74	6.33	4.43	4.20	5.38	2.17	2.92	2.80	2.25	2.94

<Jトラック・プログラムのみ>

①	入学定員	195	185	225	235	215	195	185	225	235	215
②	志願者数	1,034	2,072	1,333	1,145	1,238	577	781	824	552	673
③	入学者数	194	183	211	214	338	194	183	211	214	338
④	志願倍率 ②/①	5.30	11.20	5.92	4.87	5.76	2.96	4.22	3.66	2.35	3.13

<Eトラック・プログラムのみ>

①	入学定員	240	250	250	240	90	240	250	250	240	90
②	志願者数	591	680	770	848	404	367	488	505	516	223
③	入学者数	223	207	260	232	110	223	207	260	232	110
④	志願倍率 ②/①	2.46	2.72	3.08	3.53	4.49	1.53	1.95	2.02	2.15	2.48

表 4 の志願動向に示すとおり、近年は J トラック・プログラムへの志願者は安定的に推移し、E トラック・プログラムへの志願者は着実に増加している。令和 5 年 9 月には、東京都豊島区東池袋に最新の施設・設備を備えたキャンパスが新たに開校される予定であり、海外からの留学生にとってより魅力的な大学として、今後も更なる発展が見込める。

また、我が国では令和 5 年 4 月、教育未来創造会議において、現在は年間 23 万人受け入れている外国人留学生（大学、専修学校、日本語学校等）を、10 年後までに 38 万人に増やすことが提言された。社会からの要請という観点でも、外国人留学生受け入れの拡大が必要とされている。

上述した志願動向、社会情勢に基づき、経済学科は入学定員を増員することとした。

以上のように、今回の収容定員変更は、各学科の志願動向や社会情勢を踏まえ入学定員を調整することを目的に実施する。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

3.1. 教育課程の変更内容

今回の収容定員変更にあたっては、経済学科と英語コミュニケーション学科のいずれについても教育課程の変更は行わず、増員・減員する学生数に合わせ従前の教育を実行していく。教育の質を維持し、現代社会で求められている人材養成に引き続き努めていく。各学科の人材養成・教育研究上の目的、教育課程の概要、及び教育課程の特色は下記のとおりである。

3.1.1. 経済学部 経済学科

学則に定める人材養成・教育研究上の目的を以下に記す。

経済学部は、国際社会に生きる経済人として、世界を舞台にした経済活動に様々な分野からアプローチできる確かな理論と実践力を備えた人材を養成する。

経済学科は、経済学を基軸とした知識をもとに、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材を養成する。

経済学科の J トラック・プログラムでは、現代経済専攻、ビジネスエコノミクス専攻の 2 つの専攻を設けている。

現代経済専攻では経済学の基礎知識修得を基にして、経済について多面的に理解するとともに、広範な知識とスキルを身につけることを目指した科目を配置している。また、モデルコースとして、自らの関心に基づき様々な分野から自

由に履修することができる「経済総合コース」、スポーツ分野から重点的に学ぶ「スポーツ経済コース」、地域・公共分野から重点的に学ぶ「地域デザインコース」を設けている。

ビジネスエコノミクス専攻では、ビジネス社会で必要な経済学的思考や戦略的思考を身に付け、実践の場においてそれらを活用できることを目指した科目を配置している。また、モデルコースとして、金融に関する先端的な知識と問題解決能力を身につける「ファイナンスコース」、社会の様々な場面で目標達成のために必要な戦略や政策を立案できる能力を鍛える「ストラテジストコース」を設けている。

一方、経済学科のEトラック・プログラムでは、ビジネスエコノミクス専攻、デジタルビジネス&イノベーション専攻の二つの専攻を設けている。

ビジネスエコノミクス専攻では経営マネジメントと実用的な経済理論に焦点を当て、国際的なビジネスの状況に適応するための知識修得を目指した科目を配置している。また、「Entrepreneurial Business」、「Economics」、「Management」、「Marketing」、「Finance」の5つの分野を設定し、学生は関心のある分野を集中的に学ぶことができる。

デジタルビジネス&イノベーション専攻ではAIやビッグデータ分析等、最先端のデジタルテクノロジーを学び、それらをビジネスに利活用することを目指した科目を配置している。また、「Digital Business Management」、「Entrepreneurship & Business Innovation」、「Digital Transformation and Tech Innovation」、「AI & Deep Learning」、「Digital Finance & Fintech」、「Digital Marketing & Analytics」の6つの分野を設定し、学生は関心のある分野を集中的に学ぶことができる。

3.1.2. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

学則に定める人材養成・教育研究上の目的を以下に記す。

言語コミュニケーション学部は、国際コミュニケーションの知識と技術を磨き、国際社会で活躍できる応用力と専門性を備えた人材を養成する。

英語コミュニケーション学科は、英語力を基軸に、国際コミュニケーションの知識と実践を統合的に探求し、国際社会に貢献できる人材を養成する。

英語コミュニケーション学科では、英語ネイティブ教員(GTI:Global Teaching Institute)による初年次からの多彩な英語教育と、充実した留学プログラムを活用し、国際社会で不可欠な英語力を高める科目を配置している。また、モデル

コースとして、言語の仕組みや背景にある文化・価値観について学びを深める「異文化コミュニケーション」、実践的な英語力やコミュニケーション能力に加え、ビジネスで必要となる経営やグローバルビジネスの知識、実務能力を学ぶ「グローバルビジネスコミュニケーション」、英語の指導法や言語習得過程について深く考察し、英語教育のスペシャリストを目指す「英語教員養成」を設けている。

あらためて述べると、経済学科及び英語コミュニケーション学科の教育課程について、今回の学則変更にあたっての変更は行わない。しかし、本学は環境変化や学生の学修ニーズに応じて不断の教育課程整備・充実を図ってきており、今後もその方針に変わりはない。引き続き、必要に応じて教育課程の内容を見直し、更なる発展に努めていく。

3.2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

3.2.1. 全学的取組

各学科の教育方法及び履修指導について述べる前に、全学的な教育制度、教育環境整備の取り組みについて述べる。

・教育制度

本学は全学的に Semester 制を導入し、学生の学習密度強化のため 1 Semester 20 単位を原則的な履修上限とする キャップ制を導入している。また、科目ナンバリングによって学びの体系化・履修難易度の明示を図っている。成績評価は GPA によって表し、国際通用性を持ちうる体系とした上で厳格に運用している。更に、指導や対話の場として オフィスアワー制度を導入し、学生が各教員と自由にコミュニケーションをとれる機会を提供している。

以上については、学則変更（収容定員変更）後も支障なく運用可能であり、特段の対応変更を行わない。

・教育環境整備

本学では授業外での語学学習を促進するため、English Plaza 及び Japanese Plaza を設置している。English Plaza ではネイティブ・スピーカーの英語教員や外国人留学生スタッフが常駐し、日本人学生との英会話や、英語学習のアドバイスを行っている。一方、Japanese Plaza は外国人留学生向けに設置されており、日本人学生や日本語教員との会話を通じて日本語を学ぶ場所として運営している。また、令和 5 年 9 月に両学科が移転する池袋キャンパスにおいても、同等の施設をラーニング・コモンズとして整備している。

これら施設については、学則変更（収容定員変更）後も支障なく運用可能であり、特段の対応変更を行わない。

3.2.2. 経済学部 経済学科

経済学科の教育方法・履修指導方法について述べる。

経済学科は、Jトラック・プログラムとEトラック・プログラムともに、初年次に大学での学修の基礎を修得するための科目を配置し、基礎から専門へと体系的に学んでいく。

Jトラック・プログラムでは、更に初年次演習科目を通じて学科の学びの指導を行い、年度始めには履修ガイダンスならびに個別の履修相談期間を設定し、指導を行っている。

Eトラック・プログラムについては、アカデミック・アドバイザー制度を敷き、各アドバイザーが指導を行っている。また、GPAによって成績不振の学生をアカデミック・プロベーション対象とし、履修上限単位数の引下げ、アカデミック・アドバイザーとの面談、学修計画書提出の義務付け等を行っている。2学期連続でアカデミック・プロベーションの対象となった者は処分退学とすることもあり、厳格な指導・学籍管理を実践している。

上記の履修指導方法等は増員後も問題なく運用可能なため、引き続き指導を行っていく。

教育方法に関して、定員の増加によるST比の変化を述べる。現在の専任教員数は42名で、現行の収容定員1,900人に対するST比は45.2人、増員後の収容定員2,060人に対しては49.0人となる（表5）。

表 5. 経済学科の ST 比

	収容定員	教員数	ST比
現行	1,900	42	45.2
増員後	2,060	42	49.0

他大学と比較するため、東京都または埼玉県に所在する同規模（収容定員2,000人以上）の経済系統学部のST比を調査した（表6）。

表 6. 各大学 ST 比一覧

所在地	大学	学部	収容定員	専任教員数	ST比
東京	駒澤	経済	3,066	51	60.1
東京	國學院	経済	2,040	34	60.0
東京	明治学院	経済	2,760	49	56.3
東京	立教	経済	2,724	52	52.4
東京	日本	経済	6,264	121	51.8
東京	帝京	経済	6,518	126	51.7
東京	法政	経済	3,540	71	49.9
東京・埼玉	東京国際	経済	2,060	42	49.0
東京	学習院	経済	2,000	41	48.8
埼玉	獨協	経済	2,720	56	48.6
東京	中央	経済	4,248	90	47.2
東京	青山学院	経済	2,156	47	45.9
東京	専修	経済	2,948	70	42.1
東京	明治	政治経済	4,600	115	40.0
東京	東京経済	経済	2,120	53	40.0
東京	成蹊	経済（経営）	2,060	53	38.9
東京	慶應義塾	経済	4,800	133	36.1
東京	東洋	経済	2,464	69	35.7
東京	早稲田	政治経済	3,600	118	30.5
平均					46.6

※他大学ホームページより作成（人数は2022年5月1日時点）

本学の ST 比は各大学の平均値（46.6 人）より若干高くはあるが、他大学と比べて過度に高い水準ではないと考える。仮に科目の履修者が過剰になるような場合は、同一科目の複数クラス開講や春秋両学期での開講等、履修者を分散し、適正な人数規模でクラスを運営できるよう科目を設定していく。したがって、定員変更による増員後も、現行の教員によって十分な教育水準を確保できると考えている。

3.2.3. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科の教育方法・履修指導方法について述べる。

英語コミュニケーション学科も経済学科と同様に、初年次に大学での学修の基礎を修得するための科目を配置し、基礎から専門へと体系的に学んでいく。更に、初年次演習科目を通じて学科の学びの指導を行い、年度始めには履修ガイドンスならびに個別の履修相談期間を設定し、指導を行っている。これら指導は増員後も問題なく運用可能なため、引き続き現行の履修指導を実施していく。

教育方法に関して、定員の減少による ST 比の変化を述べる。現在の専任教員数は 21 名で、現行の収容定員 1,000 人に対する ST 比は 47.6 人、減員後の収容定員 840 人に対しては 40.0 人となる (表 7)。英語コミュニケーション学科では、語学科目において密度の高い対話型教育を実践しているため、ST 比の減少によって更にきめ細やかな教育を行える見込みである。

表 7. 英語コミュニケーション学科の ST 比

	収容定員	教員数	ST比
現行	1,000	21	47.6
減員後	840	21	40.0

3.3. 教員組織の変更内容

大学設置基準に定められている専任教員数について、収容定員変更後の基準教員数の観点で見ていく。表 8 に示すとおり、いずれの学科も設置基準を大きく上回る専任教員が在籍しており、今回の収容定員変更に際して教員の増員・減員は行わない。経済学科の設置基準教員数 23 人に対し、現在は 42 名の専任教員が在籍している。英語コミュニケーション学科では、設置基準教員数 13 人に対し、21 名の専任教員が在籍している。両学科の ST 比については前項で示したとおりである。

表 8. 各学科の専任教員数

	経済学科		英語コミュニケーション学科	
	設置基準	現行	設置基準	現行
専任教員数	23	42	13	21
内教授数	12	30	7	9

このように、いずれの学科も十分な教員を配置し、充実した教育を行っていく。教員の退職等で欠員が生じる場合は適宜補充を行い、現行の組織規模を維持する。補充にあたっては、教員の専門分野や年齢等のバランスを考慮し、長期的な継続性をもった教員組織を編成していく。

また、本学では各学部学科に所属する教員の外、以下の学部横断的教育組織を設置し、全学的な教育活動に従事している。

英語教育組織 GTI (Global Teaching Institute) には、現在 39 名の北米出身の英語ネイティブ教員が在籍している。GTI は英語コミュニケーション学科、経済学科等の初年次英語教育を担うほか、経済学科 E トラック・プログラムのアカデミック・リテラシー教育等を担当している。1 クラス 10 人程度の対話型授業できめ細やかな指導を行っており、今後についてもその質を担保するよう努めていく。

日本語教育組織 JLI (Japanese Language Institute) には、E トラック・プログラムに在籍する外国人留学生向けの日本語教育を担う 19 名の日本人教員が在籍し、少人数クラスでの濃密な日本語教育を実践している。

経済学科及び英語コミュニケーション学科においては、これら組織に所属している教員も教育課程の重要な担い手であり、上記の全学的教員組織は学則変更後も同様に運営していく。

上述してきたように、今回の収容定員変更に際して教員組織上の問題はない。この組織を維持・発展させていくために、専門性、年齢、保有学位・教歴、多様性等のバランスに配慮し、教育効果を発揮できる組織編成に引き続き努めていく。

3.4. 大学全体の施設・設備の変更内容

今回の収容定員変更に際して、大学全体の施設・設備の変更は行わない。

本届出の時点では、経済学科と英語コミュニケーション学科は埼玉県川越市に所在する川越第 1 キャンパスで学んでいるが、令和 5 年 9 月には東京都豊島区東池袋に新たなキャンパスが開校する。経済学科の各プログラム及び英語コミュニケーション学科の校地は以下のとおりである (表 9)。

表 9. 各学科・プログラムの校地

		1年次		2年次	3年次	4年次
		第1 Semester	第2 Semester			
経済学科	J トラック・プログラム	池袋	池袋	池袋	池袋	池袋
	E トラック・プログラム	川越第1	池袋	池袋	池袋	池袋
英語コミュニケーション学科		池袋	池袋	池袋	池袋	池袋

※英語コミュニケーション学科は一部の教職科目のみ、川越第1、第2キャンパスで開講 (オンラインで受講)

経済学科の J トラック・プログラムは入学から卒業までの 4 年間で池袋キャンパスで学ぶ。E トラック・プログラムについては、1 年次の第 1 セメスターのみ川越第 1 キャンパスで学び、第 2 セメスター以降は池袋キャンパスで学ぶこ

となる。英語コミュニケーション学科は入学から卒業までの4年間を池袋キャンパスで学ぶが、一部の教職科目のみ、川越第1、第2キャンパスで開講される科目を池袋キャンパスからオンラインで同時受講することとなる。

次いで、両学科が学ぶ各キャンパスの概要を述べる。

池袋キャンパスは、地上22階建て高さ約100mの高層建築校舎であり、講義室、研究室、図書館等の他に、グループ学習用スペース、語学学習用のEnglish Lounge/Japanese Lounge等、学生の学修ニーズや教員の利便性に配慮した設計としている。十分な校地・校舎面積を有し、川越第1キャンパスと同等以上の教育を提供できる施設・設備である。

埼玉県川越市に所在する川越第1キャンパスは開放感のあふれる空間が広がり、図書館、共用パソコン室、食堂や、Japanese Plazaといった語学学習用スペースを設置し、外国人留学生が快適に過ごせるキャンパスである。同じく川越市に所在する川越第2キャンパスには、福祉やスポーツに関連する専門施設を整備している。

これらの施設・設備は収容定員の変更後も支障なく運用可能であり、特段の変更は行わない。

4. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

2以上の校地で教育を受けることになる学科について、詳細を述べる。

経済学科Eトラック・プログラムの学生は入学後、1年次の第1 Semesterを川越第1キャンパスで学ぶ。当該Semesterの間は他キャンパスで開講される科目を履修することはないため、キャンパス間の移動が発生することはない。教員については、同日内で池袋キャンパスと川越第1キャンパス間の移動が必要な場合があるが、担当する授業の間に十分な移動時間をとれるよう科目を設定する。また、指導にあたって十分な教員を各キャンパスに配置していく。

英語コミュニケーション学科については、教職を目指す学生は一部の教職科目をオンラインで受講することとなる。具体的には、川越第1キャンパスあるいは第2キャンパスで開講される授業に、WEBミーティングソフトウェアで同時接続し参加する。安定した通信・接続環境や、オンラインであっても対面で受講している学生と同等の授業参加機会が得られるよう、教育の質を大学として担保する。

以上のように、経済学科Eトラック・プログラム及び英語コミュニケーション学科では、複数の校地で教育を行う上で問題のない体制を構築していく。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(収容定員変更に係る学則変更)

東京国際大学



目次

1. 収容定員変更組織の概要	3
1.1. 収容定員変更の概要	3
1.2. 収容定員変更組織の特色	3
2. 人材需要の社会的な動向等	4
2.1. 養成する人材の社会的動向	4
2.2. 中長期的な入学対象人口の社会的動向、及び主な学生募集地域	4
2.3. 各組織の定員充足状況	6
3. 学生確保の見通し	8
3.1. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	8
3.1.1. 学生確保に向けた取組の実績	8
3.1.1.1. 日本での取組・実績	8
3.1.1.2. 海外での取組・実績	10
3.1.2. 学生確保に向けた取組の計画・目標	11
3.2. 競合校の状況分析	11
3.2.1. 競合校の選定理由と収容定員変更組織との比較分析、優位性	11
3.2.2. 競合校の入学志願動向、定員充足の見込み	15
3.3. 人材需要に関する根拠	16
3.3.1. 外国人材需要の高まり	16
4. 収容定員変更組織の定員設定の理由	16

1. 収容定員変更組織の概要

1.1. 収容定員変更の概要

令和6年度から、東京国際大学学則第8条に定める、経済学部経済学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員及び収容定員を以下のように変更する（表1）。経済学科は入学定員を40人増やすことで、現在の475人から515人へと増員する。英語コミュニケーション学科については入学定員を40人減じ、入学定員を現在の250人から210人へと減員する。大学全体では入学定員、収容定員に変動はない。

表1. 令和6年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	475人	1,900人	515人	2,060人	+40人	+160人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250人	1,000人	210人	840人	-40人	-160人

1.2. 収容定員変更組織の特色

本学は、建学の精神である「公德心を体した真の国際人の養成」を実現するため、教育の柱の一つとして国際教育を掲げている。具体的には、徹底した外国語教育や海外からの留学生の受け入れ、海外姉妹校への留学プログラム等、「真の国際人」として社会に出る人材を養成するための教育を推進している。

定員を変更する各学科の特色、目指す人材像について概要を述べる。

経済学科では、日本語での授業を中心に展開するJトラック・プログラムに加え、英語のみで学位取得が可能なEトラック・プログラムを設けており、世界53ヶ国900名以上の外国人留学生が学んでいる。世界から多様な価値観をもつ学生が参集する当学科で最先端の経済学を学び、グローバルに展開される経済活動の流れや戦略的思考を身につけ、あらゆる職業分野の第一線で活躍できる人材を目指している。

英語コミュニケーション学科では、英語教授法の修士学位を取得している語学指導のスペシャリストたちの教員組織を編成。ネイティブの英語教員による1クラス10名程度の少人数による対話型授業によって、英語での情報発信や問題解決等、国際社会で自在にコミュニケーションを図ることが可能な人材を目指している。

2. 人材需要の社会的な動向等

2.1. 養成する人材の社会的動向

養成する人材に対する社会からの需要を示すため、各学科卒業生の就職実績を述べる。両学科の就職率については過去 3 年間高い実績を上げており、経済学科及び英語コミュニケーション学科の養成する人材が現代社会で必要とされていることを示している（表 2）。

表 2. 各学科の就職率

	令和2年度卒			令和3年度卒			令和4年度卒		
	就職希望者数	就職者数	就職率	就職希望者数	就職者数	就職率	就職希望者数	就職者数	就職率
経済学科	257	243	94.6	269	266	98.9	286	283	99.0
英語コミュニケーション学科	175	172	98.3	198	196	99.0	168	167	99.4

また、経済学科 E トラック・プログラムに関して特記すると、我が国では令和 5 年 4 月、教育未来創造会議において、外国人留学生の受け入れ拡大及び日本社会への定着が提言された。目的として、高度外国人材の確保を通じた日本経済・社会の活性化及び国際化等が挙げられている。この提言では 10 年後までに達成すべき様々な目標が設定されており、日本で学ぶ外国人留学生は将来の人材として社会的需要が高い状況にある。

2.2. 中長期的な入学対象人口の社会的動向、及び主な学生募集地域

本学の主な学生募集地域である一都三県及び海外アジア圏について、今後 10 年程の人口推移から考えると、収容定員変更後も十分に学生確保が可能な状況だと考える。詳細を以下に記す。

中長期的な見通しを考察するため、まずは本学入学生の出身地を確認する。令和 4 年度学校基本調査に即し、両学科の出身高校の所在地県別入学者数を表 3 に示す。

表 3. 出身高校の所在地（令和 4 年度春入学生）

	都道府県				
	東京都	埼玉県	千葉県	神奈川県	その他道府県
人数	81	182	11	11	97
構成比	21.2	47.6	2.9	2.9	25.4

※外国の学校卒、高卒認定を除く

令和4年度春に経済学科または英語コミュニケーション学科に入学した学生は47.6%が埼玉県、21.2%が東京都で、これら二都県で7割強を占める（外国の学校卒、高卒認定を除く）。現状、両学科は川越第1キャンパスで学んでいるが、令和5年9月に池袋キャンパスへ移転予定のため、令和6年度以降の入学者については出身都道府県の構成が変化すると考えられる。令和4年度学校基本調査において、東京都に所在する大学の出身高校の所在地県別入学者数を見ると、東京都が35.9%、神奈川県が15.6%、埼玉県が11.9%、千葉県が9.4%で、この一都三県で7割強を占める（表4）。

表4. 出身高校の所在地（東京都所在の大学）

	都道府県				
	東京都	埼玉県	千葉県	神奈川県	その他 道府県
人数	54294	18027	14177	23617	41330
構成比	35.9	11.9	9.4	15.6	27.3

※外国の学校卒、高卒認定を除く／令和4年度学校基本調査より作成

本学経済学科及び英語コミュニケーション学科においても、キャンパス移転後は同様の傾向になると想定されるため、学生募集の対象となる18歳人口のリユーム変化については一都三県の見通しを見ていく。

学校基本調査データを基にしたリクルート進学総研の報告書（資料1）によつて、2022年を基準とした18歳人口の予測指数を見ると、2034年では一都三県で96.5になると推計されている（表5）。

表5. 18歳人口の予測

	人数			指数（2022年を基準）		
	2022年	2028年	2034年	2022年	2028年	2034年
東京	104,018	106,969	106,767	100.0	102.8	102.6
埼玉	63,542	61,836	59,089	100.0	97.3	93.0
千葉	53,904	52,074	49,851	100.0	96.6	92.5
神奈川	77,892	75,211	73,263	100.0	96.6	94.1
一都三県	299,356	296,090	288,970	100.0	98.9	96.5
全国	1,121,285	1,068,477	1,005,782	100.0	95.3	89.7

リクルート進学総研「マーケットレポート2022」より作成

2034年の全国の指数は89.7であるため、一都三県では18歳人口の減少幅が比較的小さい。特に東京都の指数は102.6と、18歳人口は2022年よりも増加す

ることが学校基本調査の結果から推計されている。

本学はこれまで、埼玉県、東京都を中心として学生募集活動を行ってきたが、今後は18歳人口の多い東京都への更なる注力、神奈川県と千葉県への活動圏拡大を進めていく。

コロナ禍以降、加速する少子化によって、国内の学生募集環境は今後も楽観視できる状況ではない。しかし、本学の主な学生募集地域である東京都を中心とした一都三県では、今後の18歳人口に急激な落ち込みはないと予測でき、十分に定員を確保することが可能だと考える。

次いで、経済学科 Eトラック・プログラムに多く在籍している外国人留学生について、海外からの留学生動向を述べる。

日本へ留学してくる外国人留学生は、新型コロナウイルスの感染拡大以降、減少が続いている。2022年度に大学、専修学校、日本語学校等へ留学してきた学生は23万人強となった（資料2）。しかし、令和5年4月、日本政府の教育未来創造会議において、2033年には外国人留学生数を38万人まで増加させることが目標として示されている。今後は留学生の受け入れ拡大のため、国による様々な施策が実行されることが想定できる。

日本へ留学してくる学生の出身国を見ると、アジア圏が9割以上を占めており（資料3）、将来的な世界人口動態推計でもアジア圏人口は今後10年以上増加が続いていくと考えられている（資料4）。現状、本学の学生募集活動もアジアを中心に実施しており、ベトナム、タイ、インドネシアでの海外オフィス設置やインドでの本学代表者の任用など、現地に根差した募集活動を行っている。これからも引き続き、成長するアジアを中心とした学生募集を推進していく。

本学はコロナ禍の厳しい学生募集環境にあっても、Eトラック・プログラムで学ぶ外国人留学生を安定的に確保することができていた。今後は国による施策強化やコロナ禍から平時への移行によって、より外国人留学生を確保しやすい環境になると考えられる。また、拡大するアジア圏において学生募集ネットワークを形成しているため、十分に定員を充たしていくことが可能と言える。

2.3. 各組織の定員充足状況

本学全学科の定員充足状況を資料5に示す。また、収容定員変更を行う経済学科、英語コミュニケーション学科は入学・志願動向を詳述する（表6、表7）。

本学各学科について、過去4年間の平均入学定員超過率及び令和5年度5月1日時点の収容定員充足率は、いずれも0.7倍以上1.15未満で安定的に定員を充足できている（資料5）。後述する学生確保の取組に今後も力を入れ、引き続き過不足ない定員確保を実行していく。

表 6. 経済学科の志願・入学動向

※令和5年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試のEトラック・プログラム入学定員170人は除外）

入学年度	【延べ人数】					【実人数】 ※学科間で併願している受験生を案分				
	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
① 入学定員	435	435	475	475	305	435	435	475	475	305
② 志願者数	1,625	2,752	2,103	1,993	1,642	944	1,269	1,329	1,068	896
③ 受験者数	1,573	2,606	2,005	1,890	1,541	927	1,231	1,271	1,031	853
④ 合格者数	924	1,200	1,462	1,534	1,271	604	737	995	870	743
⑤ 入学者数	417	390	471	446	448	417	390	471	446	448
⑥ 志願倍率 ②/①	3.74	6.33	4.43	4.20	5.38	2.17	2.92	2.80	2.25	2.94
⑦ 合格率 ④/③	58.7%	46.0%	72.9%	81.2%	82.5%	65.2%	59.8%	78.3%	84.4%	87.2%
⑧ 歩留 ⑤/④	45.1%	32.5%	32.2%	29.1%	35.2%	69.0%	52.9%	47.3%	51.2%	60.3%
⑨ 定員充足率 ⑤/①	0.96	0.90	0.99	0.94	1.47	0.96	0.90	0.99	0.94	1.47

<Jトラック・プログラムのみ>

① 入学定員	195	185	225	235	215	195	185	225	235	215
② 志願者数	1,034	2,072	1,333	1,145	1,238	577	781	824	552	673
③ 受験者数	982	1,926	1,235	1,042	1,137	560	743	766	515	630
④ 合格者数	411	606	774	806	926	285	310	542	423	554
⑤ 入学者数	194	183	211	214	338	194	183	211	214	338
⑥ 志願倍率 ②/①	5.30	11.20	5.92	4.87	5.76	2.96	4.22	3.66	2.35	3.13
⑦ 合格率 ④/③	41.9%	31.5%	62.7%	77.4%	81.4%	50.9%	41.7%	70.7%	82.1%	88.0%
⑧ 歩留 ⑤/④	47.2%	30.2%	27.3%	26.6%	36.5%	68.1%	59.1%	38.9%	50.6%	61.0%
⑨ 定員充足率 ⑤/①	0.99	0.99	0.94	0.91	1.57	0.99	0.99	0.94	0.91	1.57

<Eトラック・プログラムのみ>

① 入学定員	240	250	250	240	90	240	250	250	240	90
② 志願者数	591	680	770	848	404	367	488	505	516	223
③ 受験者数	591	680	770	848	404	367	488	505	516	223
④ 合格者数	513	594	688	728	345	320	427	453	447	189
⑤ 入学者数	223	207	260	232	110	223	207	260	232	110
⑥ 志願倍率 ②/①	2.46	2.72	3.08	3.53	4.49	1.53	1.95	2.02	2.15	2.48
⑦ 合格率 ④/③	86.8%	87.4%	89.4%	85.8%	85.4%	87.1%	87.5%	89.7%	86.6%	84.8%
⑧ 歩留 ⑤/④	43.5%	34.8%	37.8%	31.9%	31.9%	69.8%	48.5%	57.4%	51.9%	58.2%
⑨ 定員充足率 ⑤/①	0.93	0.83	1.04	0.97	1.22	0.93	0.83	1.04	0.97	1.22

表 6 で示す経済学科については、過去 5 年間、Jトラック・プログラムへの志願者は安定的に推移し、Eトラック・プログラムへの志願者は着実に増加している。令和 5 年 9 月には、東京都豊島区東池袋に最新の施設・設備を備えたキャンパスが新たに開校される予定であり、海外からの留学生にとってより魅力的な大学として、今後も更なる発展が見込める。したがって、次年度以降も堅実に学生を確保していくことが可能と考える。

表 7. 英語コミュニケーション学科の志願・入学動向

入学年度		【延べ人数】					【実人数】 ※学科間で併願している受験生を案分					
		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	
①	入学定員	230	230	250	250	250	230	230	250	250	250	
②	志願者数	1,130	1,421	999	758	722	701	708	677	420	458	
③	受験者数	1,087	1,350	945	709	682	679	680	641	402	441	
④	合格者数	444	607	725	623	624	343	369	528	370	416	
⑤	入学者数	227	225	237	172	231	227	225	237	172	231	
⑥	志願倍率	②/①	4.91	6.18	4.00	3.03	2.89	3.05	3.08	2.71	1.68	1.83
⑦	合格率	④/③	40.8%	45.0%	76.7%	87.9%	91.5%	50.5%	54.2%	82.5%	92.1%	94.4%
⑧	歩留	⑤/④	51.1%	37.1%	32.7%	27.6%	37.0%	66.2%	61.0%	44.9%	46.4%	55.5%
⑨	定員充足率	⑤/①	0.99	0.98	0.95	0.69	0.92	0.99	0.98	0.95	0.69	0.92

表 7 で示す英語コミュニケーション学科については、新型コロナウイルスの蔓延以降、志願者が減少してきた。本学に限らず、外国語・国際系統学部への志願者は減少しており、コロナ禍での国外移動の制限や忌避が一因だと考えられる。しかし、社会的に新型コロナウイルスの影響は緩和しつつあるため、今後の志願動向にこれ以上の落ち込みはないと想定している。現状でも定員充足は問題なく行えているものの、今回の学則変更で減員を行い、合格率の抑制・適正な入学試験実施を図りつつ定員を確保していく。

3. 学生確保の見通し

3.1. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

3.1.1. 学生確保に向けた取組の実績

学生確保に向けた取組に関して、過去の実績を資料 6、資料 8 にまとめた。学生募集活動では、本学の特徴や学科の特色が受験生及び保護者、高校教員等に伝わるよう様々な機会を設けている。

3.1.1.1. 日本での取組・実績

まずは日本国内において実施した主要な取組、実績を述べる（資料 6）。

・オープンキャンパス

受験生向けに大学の学びを理解してもらう機会としてオープンキャンパスを開催している。令和 5 年度の本学新入生を対象に行った調査によると、東京国際大学を受験する際に影響を受けたものとして、オープンキャンパスが上位に挙げられた。進学先を決める上で重要な情報経路であると考え、受験生と直接的に接する機会であるオープンキャンパスを特に力を入れて遂行している。具体的な内容として、本学の特色や人材育成の狙いの紹介、模擬授業、在学生による

プレゼンテーション、キャンパス案内等を行っている。

令和 4 年度は 2,359 名が参加し、その内入学した学生は 981 名だった。オープンキャンパスのコンテンツは継続的に質の向上に努めており、その成果から参加者中の入学者比率は過去 3 年で漸増している (39.8%→40.2%→41.6%)。

・高校等訪問

本学が重点対象とする高校に対し職員を派遣、進路指導部長及び部員に本学の教育システム、方針について説明を実施し、生徒が本学への興味、関心を持ってもらえるように周知を依頼している。令和 4 年度については延べ 858 校を訪問した。訪問高校あたりの入学者数は過去 3 年間、1.1~1.3 の間で推移している。

・高校個別模擬授業

重点対象とする高校に対しては、教員を派遣して出張講義を行い、高校生が具体的な学びのイメージを掴む手助けをしている。令和 4 年度は 19 校で実施し、計 616 人の参加者となった。令和 2 年度、令和 3 年度はコロナ禍によって模擬授業を行うことが難しい環境ではあったが、令和 4 年にはコロナ禍以前の水準まで戻りつつある。

・高校内ガイダンス

高校内で開催されるガイダンス・説明会へ積極的に参加している。令和 4 年度は 171 校のガイダンス・説明会に参加し、参加した受験生等の人数は 2,552 人だった。コロナの影響が緩和しつつあるため、参加高校数は過去 3 年間増加している。

・進学ガイダンス

学外で開催される各種進学ガイダンス・説明会については、首都圏に限らず地方エリアのものにも積極的に参加している。令和 4 年度は 25 会場のガイダンス・説明会に参加した。

・大学案内

大学案内については容易に請求できるフォームを、本学ホームページ等に掲載している。大学案内等の資料請求数は、令和 4 年度は 43,477 件に達し、令和 3 年度よりも増加した。

以上、主な取組の実績を述べてきた。また、各取組の内容・コンテンツについ

ては継続的な質向上に努めており、新入生を対象にした調査によっても学生募集活動の振り返りを行っている。令和 5 年度に実施した調査によると、各情報源が「とても影響した」と回答した学生が過去 3 年間で増加しており、学生募集の取組の質を高め、入学に繋がられた表れだと考える（資料 7）。

3.1.1.2. 海外での取組・実績

続いて、主に外国人留学生を対象として、海外において実施した主要な取組、実績を述べる（資料 8）。

・海外オフィス等の設置

ベトナム、インドネシア、タイに本学の海外オフィスを設置し、インドでは本学代表者を任用している。Eトラック・プログラムの広報活動、当該国における学生募集活動の拠点とし、現地の高校とのネットワーク構築や留学希望者への情報提供を担っている。

・ウェビナー（模擬授業、同窓生パネルディスカッション等）

オンラインセミナーとして、Eトラック・プログラムを体験する模擬授業や、本学卒業生が参加するパネルディスカッション、Eトラック・プログラムの説明セミナー等を実施した。令和 4 年度は 14 回実施し、774 名が参加した。参加者中の入学者数は、令和 3 年度が 13.3%、令和 4 年度が 36.8%となっている。

・留学フェア

募集に注力している各国において、留学フェアに参加し広報活動を行っている。日本学生支援機構が海外で開催する日本留学フェアをはじめ、現地エージェント主催の留学フェアに本学スタッフや海外オフィス担当者が参加し、留学希望者に Eトラック・プログラムの紹介や、出願手続の案内等を行っている。令和 4 年度は 5 か国、69 回のフェアに参加した。

・高校主催フェア、説明会

現地高校が主催する留学フェアや高校での大学説明会に参加。本学スタッフ等がブースを出展し、大学紹介のプレゼンテーションや生徒との個別面談を行っている。令和 4 年度は 5 か国、284 の高校で行われるフェア等に参加した。

・高校訪問

学校長や進路指導カウンセラーに対し本学スタッフや海外オフィス担当者から Eトラック・プログラムの紹介を行っている。令和 4 年度は 40 校に訪問した。

3.1.2. 学生確保に向けた取組の計画・目標

今後の学生募集活動の計画・目標を述べる。

活動の種類については現在行っている取組を引き続き実施していき、活動量については令和4年度の水準を維持する。各活動の具体的な内容として、池袋キャンパスが開校となることから、日本での高校訪問や進学ガイダンスは東京都、千葉県、神奈川県を重点的に高めていく計画である。オープンキャンパスについては池袋キャンパスでの開催や受験相談会の実施を予定しており、新しいキャンパスの魅力が確りと伝わるプログラムを検討している。また、各活動の内容・コンテンツに関しては、これまでどおり質の向上に努めていく所存である。

今回の学則変更では経済学科の定員が増加することになるが、経済学科では現在の学生募集活動で堅実に志願者・入学者を集められている。次年度以降も活動量を維持し、内容・コンテンツの質向上に取り組んでいくことで、増員分についても入学者を確保できると考える。

また、学生募集活動を進めていくにあたっては、志願者数・入学者数という「量」の観点だけではなく、入学生の意識・意欲といった「質」にも注意を払う。例えば、日本人の新入生を対象にした調査では、大学生活で力を入れたいことを聴取しており、直近の調査結果を見ると「学部学科の専門分野の勉強」等、意欲の高い学生を確保できていることが確認できる（資料9）。このように、学生募集活動の成果を多面的に振り返り、「質・量」ともに向上させていくことを取組の目標とする。

3.2. 競合校の状況分析

3.2.1. 競合校の選定理由と収容定員変更組織との比較分析、優位性

競合校に対する本学の優位性として、日本人学生においては、確実に英語力を向上させる国際教育と学生一人ひとりへの手厚い就職支援が挙げられる。また、外国人留学生においては、就職支援に加え、英語のみによって学位取得が可能な点と独自性の高い専攻内容が挙げられる。以下に詳しく述べていく。

競合校の分析にあたり、経済学科 J トラック・プログラムと英語コミュニケーション学科の入学生（主に日本人学生）が受験時に併願している大学を確認した。過去3年間の新入生調査において、各学科の併願校として挙げられた比率が高い5校を以下に示す（表9）。各々の学科で帝京大学、東洋大学、拓殖大学は共通し、その他大東文化大学、日本大学、獨協大学、神田外語大学となっている。

表 9. 各学科の併願校

	経済学科 (Jトラック・プログラム)	英語コミュニケーション学科
併願校 上位	大東文化 帝京 日本 東洋 拓殖	獨協 神田外語 東洋 帝京 拓殖

両学科が川越第 1 キャンパスから池袋キャンパスへ移転した後は、併願校の様相が変わる可能性もあるが、現在上位に挙がっているものは東京都にキャンパスを設置している大学が多いため、移転後の併願校が現状から大きく変動することはないと考える。したがって、上記に示した大学を競合校と想定し、分析を進めていく。

本学と競合校を比較するため、各大学の情報を資料 10 にまとめた。

まずは教育内容・制度を比較する。英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) とベネッセグループが発表している「THE 日本大学ランキング 2023」の結果によると、本学の「教育充実度 (在籍学生や高校教員への調査を基にした教育内容の評価指標)」は大東文化大学及び拓殖大学よりも高く評価されている。一方、東洋大学や日本大学、獨協大学、神田外語大学、帝京大学に比べると本学の評価は低い (表 9)。教育充実度の指標を教育内容に対する総合的な評価と見做すと、一部の競合大学より高い評価を受けているものの、全ての大学に対して優位性をもっているわけではない。

表 9. THE 日本大学ランキング比較

		東京国際	帝京	東洋	拓殖	大東文化	日本	獨協	神田外語
THE日本 大学ラン キング	総合スコア	43.4-43.9	42.2-43.3	49.7	34.7-41.0	20.1-34.6	41.1-42.1	46.2-46.9	56.2
	教育リソース	-	31.2	22.0-31.0	-	-	22.0-31.0	-	22.0-31.0
	教育充実度	60.2	62.6	74.1	48.9-56.1	48.9-56.1	69.6	75.4	84.7
	教育成果	15.6-26.3	33.8	32.9	26.6	15.6-26.3	33.0	40.0	30.8
	国際性	88.0	41.9	72.6	68.8	41.0	27.7-40.5	54.4	80.0

※THE「THE日本大学ランキング2023」より作成

※THE日本大学ランキング指標

教育リソース：どれだけ充実した教育が行われる可能性があるか (学生 1 人あたりの資金、教員比率など)

教育充実度：どれだけ教育への期待が実現されているか (在籍学生による「授業・指導の充実度」などの評価や、高校教員による「グローバル人材の育成を重視する大学」などの評価)

教育成果：どれだけ卒業生の活躍が期待できるか (企業の人事担当者や大学の研究者による評判調査)

国際性：どれだけ国際的な教育環境になっているか (学生や教員に占める外国人の割合など)

※他大学の項目は、東京国際大学よりも低いものを青く色づけしている。

但し、教育内容に関して個別の要素、国際教育について見れば、本学に優位性があると考えられる。THE 日本大学ランキングでは、「国際性（外国人教員の比率等を基にした国際的な教育環境の指標）」は全ての競合大学に比べて高く評価されている（表 9）。本学の国際教育は、『学則の変更の趣旨等を記載した書類』等で述べてきたように、英語教授法の修士学位をもつ語学指導スペシャリストたちの英語教員組織や、1 クラス 10 名程度の少人数による対話型授業、充実した留学支援、アメリカ姉妹校をはじめとした様々な留学先等、多くの特長がある。また、本学の English Plaza 内では英会話だけでなく英語のライティング指導も行っており、多くの競合校にはない外国語ライティングセンターとしての機能をもたせている（資料 10）。以上のように、学生の学びを支援し、英語力を確実に向上させる国際教育を実践している。

この国際教育は英語コミュニケーション学科だけのものではなく、経済学科 J トラック・プログラムにおいても、グローバルコースとして特別なカリキュラムを設定し、英語習得に関心のある学生にとって充実した教育を提供している。

以上のように、本学は他大学に負けない優れた国際教育を提供していると自負しており、教育の大きな強みと言える。

次いで、就職支援について述べる。本学の就職課（キャリアセンター）職員数は 23 名で、学部の収容定員 7290 人を除すると 300 人強となる。この人数は他の多くの大学と比べて少なく、学生一人ひとりの就職を手厚く支援することを目的に充実した職員体制を敷いているためである（表 10）。

表 10. 就職課職員一人当たりの学生数

	東京国際	帝京	東洋	拓殖	大東文化	日本	獨協	神田外語
就職課（キャリアセンター）職員数	23	26	43	16	14	65	9	13
大学全体の収容定員（学部生）	7,290	22,952	29,024	8,951	11,300	66,803	7,020	3,901
就職課職員一人あたりの学生数	317	883	675	559	807	1,028	780	300

※蛭雪時代「2023年度用 大学の真の実力 情報公開BOOK」、大学ホームページより作成
他大学の項目は、東京国際大学よりも多いものを青く色づけしている。

本学では就職支援デスクに専門コンサルタントが常駐し、エントリーシートや面接対策のアドバイス等、学生の就職活動を個別にバックアップしている。また、国内の大手企業、地元企業、官公庁などで多様なインターンシップを展開し、海外インターンシップも学生へ向けて紹介している。加えて、外国人留学生を対象に、6 名の職員からなる E トラックキャリアディベロップメント課を設置し、日本企業への就職等を丁寧にサポートしている。

このような充実した就職支援は本学の強みの一つであると考える。

引き続き、経済学科 E トラック・プログラム（主に外国人留学生）について述べる。令和 5 年度の経済学科 E トラック・プログラム新入生を対象にした調査によると、8 割弱の学生が東京国際大学のみを専願している（日本の他大学は併願していない）状況にある（表 11）。

表 11. 東京国際大学の他に併願した日本の大学

		n=	APU	立命館	早稲田	慶應	上智	テンプル	京都先端科学 KUAS	国際 教養	大阪	その他	出願し た大学 はない
全体		(60)	13.3%	3.3%	3.3%	1.7%	1.7%	1.7%	3.3%	1.7%	1.7%	6.7%	78.3%
専 攻 別	ビジネスエコノミクス	(20)	20.0%	0.0%	10.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%	70.0%
	デジタルビジネス &イノベーション	(40)	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	2.5%	7.5%	82.5%

同調査で本学を進学先を選んだ理由を見ると、「英語によるプログラム（英語のみで学位がとれる）」、「専攻内容」が特に高い（表 12）。

表 12. 東京国際大学を進学先として選んだ理由（複数回答）

		n=	専攻内容	英語による プログラム	教員の質	学生生活 ／クラブ 活動	全体的な 雰囲気	場所	学費減免	TIU海外 オフィスの 支援	その他
全体		(60)	78.3%	90.0%	30.0%	33.3%	48.3%	21.7%	61.7%	11.7%	0.0%
専 攻 別	ビジネスエコノミクス	(20)	70.0%	80.0%	25.0%	35.0%	55.0%	20.0%	35.0%	20.0%	0.0%
	デジタルビジネス &イノベーション	(40)	82.5%	95.0%	32.5%	32.5%	45.0%	22.5%	75.0%	7.5%	0.0%

文部科学省が調査を行った「令和 2 年度の大学における教育内容等の改革状況について」によると、英語による授業の履修のみで卒業できる日本の大学は、学部段階で僅か 43 大学（大学全体の 5.7%）に留まっている（資料 11）。日本語に自信がない留学生にとって、英語のみで学位が取得できる大学は選択肢として希少であり、本学が選ばれる一因になっている。

また、専攻内容について見ると、デジタルビジネス&イノベーションを専攻する学生の場合、本学のみに出願した学生の比率が他の専攻に比べて高い（表 11）。AI やビッグデータ分析等の最先端のデジタルテクノロジーとビジネスへの利活用を学ぶ当該専攻は、英語のみで学位が取得できる大学の中で見ても独自性のある教育内容であり、本学のもつ強みとなっている。

以上述べてきたように、英語のみによって学位取得が可能な点と、独自性の高い専攻内容が経済学科Eトラック・プログラムの競争優位性だと考える。

3.2.2. 競合校の入学志願動向、定員充足の見込み

本学の競合となる大学（学部学科）の入学志願動向を資料 12 に示す。特に、増員する経済学科の競合校について見ていく（表 13）。

各大学の入学定員充足率を見ると、いずれの大学も過去 3 年間 1.0 倍前後で推移し、安定して入学者を確保していることを確認できる。また、多くの大学で令和 2 年から 4 年にかけて志願者数が減少しているが、これはコロナ禍での一般的な傾向と捉えている。

表 13. 経済学科競合校の入学志願動向

大学	学部	学科	入学定員			志願者数			入学者数			入学定員充足率		
			令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4
大東文化	経済	現代経済	165	165	165	2100	2019	1912	164	170	167	0.99	1.03	1.01
帝京	経済	経済	550	550	550	4423	3520	3356	539	502	612	0.98	0.91	1.11
日本	経済	経済	916	916	916	9935	9105	8449	NA	945	977	NA	1.03	1.07
東洋	経済	経済	250	250	250	5113	5430	5857	257	249	248	1.03	1.00	0.99
拓殖	政経	経済	450	473	473	2342	1458	1084	455	473	507	1.01	1.00	1.07

※各大学ホームページ、旺文社「パスナビ」から作成

※拓殖大学の志願者数については、公開されている一部入試（一般選抜、共通テスト利用選抜等）結果のみの数値

なお、経済学系統の入学志願動向は、競合校に限らず、安定的に推移している。日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、過去 3 年間の経済学部（全国）の志願倍率及び入学定員充足率は、大学全体よりも高い状況にある（表 14）。多くの受験生が経済学系統を志望しており、堅実に定員を確保することが可能な環境だと考える。

表 14. 経済学部（全国）の入学志願動向

経済学部					大学全体				
		令和2	令和3	令和4			令和2	令和3	令和4
入学定員	①	38,695	39,013	38,782	入学定員	①	491,012	495,162	498,019
志願者数	②	391,925	350,241	342,042	志願者数	②	4,368,215	3,834,860	3,822,509
志願倍率	②/①	10.1	9.0	8.8	志願倍率	②/①	8.9	7.7	7.7
入学者数	③	39,733	39,567	40,180	入学者数	③	503,830	494,208	502,199
入学定員充足率	③/①	102.7%	101.4%	103.6%	入学定員充足率	③/①	102.6%	99.8%	100.8%

日本私立学校振興・共済事業団『私立大学・短期大学等入学志願動向』から作成

前項で見てきたように、本学は THE 日本大学ランキングの教育充実度指標において、大東文化大学及び拓殖大学よりも高い評価を在籍学生や高校教員から受けている。また、学生数に対して他大学よりも多くの就職課（キャリアセンター）職員を配置し、手厚い就職支援を行っている。そして、国際教育には特に強みを持ち、国際的な学びに関心のある学生にとって魅力のある大学と言える。外国人留学生に対しても、英語のみによる学位取得と独自性のある専攻内容を強みとし、これまでどおり着実に志願者を増やしていくことを想定している。

これら本学の優位性を踏まえ、競合校と伍して学生募集活動を行い、経済学科で増員する入学定員を充足させることが可能だと考える。

3.3. 人材需要に関する根拠

3.3.1. 外国人材需要の高まり

前述したとおり、本邦では、高度外国人材の確保を通じた日本経済・社会の活性化及び国際化等が喫緊の課題として存在し、日本で学ぶ外国人留学生は将来の人材として社会的需要が高い状況にある。

2022年2月、国際協力機構（JICA）等が報告した試算によると、2040年に政府目標とするGDPを達成するには、現在の約4倍の674万人の外国人労働者が必要になる（資料13）。また、現在の外国人受け入れ方式・トレンドに基づいたシナリオでは、674万人の需要に対し、42万人が不足すると推計されている。

日本で学び、卒業後に日本社会に定着する外国人を増やすことへの取組が今以上に必要とされており、本学の経済学科Eトラック・プログラムの発展は、将来の日本社会を支える人材を生み出す一助になると考える。

4. 収容定員変更組織の定員設定の理由

今回の収容定員変更では、増員・減員の人数は主に以下の観点から設定した。①増員後の学科において十分に学生確保が見込めること、②増員後の学科において教育内容の質を維持した上で運営できること、③変更後の定員で適正な入学者選抜ができること、である。

①については本資料の「2. 人材需要の社会的な動向等」や「3. 学生確保の見通し」で既に説明してきたように、社会動向や本学の強みを踏まえ、十分に学生確保が可能だと考える。

②に関しては『学則の変更の趣旨等を記載した書類』で示したとおり、増員後も問題なく本学の教育を実践していくことができる。

③を検証するにあたって、定員変更後における入学者選抜のシミュレーションを行った。結果を以下に示す（表15、表16）。

表 15. 経済学科入学者選抜のシミュレーション

※令和5年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試のEトラック・プログラム入学定員170人は除外）

延べ人数	入学年度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	シミュレーション	
	①	入学定員	435	435	475	475	305	515	
②	志願者数	1,625	2,752	2,103	1,993	1,642	1,993	※令和4年度の実績	
③	受験者数	1,573	2,606	2,005	1,890	1,541	1,870		
④	合格者数	924	1,200	1,462	1,534	1,271	1,461		
⑤	入学者数	417	390	471	446	448	515		
⑥	志願倍率	②/①	3.74	6.33	4.43	4.20	5.38	3.87	
⑦	受験率	③/②	96.8%	94.7%	95.3%	94.8%	93.8%	93.8%	※令和5年度の実績
⑧	合格率	④/③	58.7%	46.0%	72.9%	81.2%	82.5%	78.1%	
⑨	実質倍率	③/④	1.70	2.17	1.37	1.23	1.21	1.28	
⑩	歩留	⑤/④	45.1%	32.5%	32.2%	29.1%	35.2%	35.2%	※令和5年度の実績
⑪	定員充足率	⑤/①	0.96	0.90	0.99	0.94	1.47	1.00	

実人数	入学年度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	シミュレーション	
	①	入学定員	435	435	475	475	305	515	
②	志願者数	944	1,269	1,329	1,068	896	1,068	※令和4年度の実績	
③	受験者数	927	1,231	1,271	1,031	853	1,016		
④	合格者数	604	737	995	870	743	854		
⑤	入学者数	417	390	471	446	448	515		
⑥	志願倍率	②/①	2.17	2.92	2.80	2.25	2.94	2.07	
⑦	受験率	③/②	98.1%	97.0%	95.6%	96.6%	95.1%	95.1%	※令和5年度の実績
⑧	合格率	④/③	65.2%	59.8%	78.3%	84.4%	87.2%	84.1%	
⑨	実質倍率	③/④	1.53	1.67	1.28	1.19	1.15	1.19	
⑩	歩留	⑤/④	69.0%	52.9%	47.3%	51.2%	60.3%	60.3%	※令和5年度の実績
⑪	定員充足率	⑤/①	0.96	0.90	0.99	0.94	1.47	1.00	

経済学科は40人の増員のため、入学定員は515人となる。シミュレーションで想定する志願者数は令和4年度の実績値を用いる（令和5年度は秋学期入試がまだ実施されていないため）。受験率及び歩留については、直近の動向を反映するため、令和5年度春学期入試の実績値を用いる。

シミュレーションの結果、増員後の入学定員充足率1.00確保に必要な合格者数は、述べ人数で1461人、実人数で854人となる。合格率で見た場合では、述べ人数で78.1%、実人数で84.1%となる。この合格率は過去5年間の合格率を超える数値ではなく、問題が生じる水準とは言えない。よって、適正な入学者選抜を行った上で、学生を確保していくことが可能だと判断できる。

続いて、英語コミュニケーション学科のシミュレーションを示す。

表 16. 英語コミュニケーション学科入学者選抜のシミュレーション

延べ人数	入学年度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	シミュレーション	
	①	入学定員	230	230	250	250	250	210	
②	志願者数	1,130	1,421	999	758	722	722	※令和5年度の実績	
③	受験者数	1,087	1,350	945	709	682	682		
④	合格者数	444	607	725	623	624	567		
⑤	入学者数	227	225	237	172	231	210		
⑥	志願倍率	②/①	4.91	6.18	4.00	3.03	2.89	3.44	
⑦	受験率	③/②	96.2%	95.0%	94.6%	93.5%	94.5%	94.5%	※令和5年度の実績
⑧	合格率	④/③	40.8%	45.0%	76.7%	87.9%	91.5%	83.2%	
⑨	実質倍率	③/④	2.45	2.22	1.30	1.14	1.09	1.20	
⑩	歩留	⑤/④	51.1%	37.1%	32.7%	27.6%	37.0%	37.0%	※令和5年度の実績
⑪	定員充足率	⑤/①	0.99	0.98	0.95	0.69	0.92	1.00	

実人数	入学年度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	シミュレーション	
	①	入学定員	230	230	250	250	250	210	
②	志願者数	701	708	677	420	458	458	※令和5年度の実績	
③	受験者数	679	680	641	402	441	441		
④	合格者数	343	369	528	370	416	379		
⑤	入学者数	227	225	237	172	231	210		
⑥	志願倍率	②/①	3.05	3.08	2.71	1.68	1.83	2.18	
⑦	受験率	③/②	96.9%	95.9%	94.6%	95.9%	96.2%	96.2%	※令和5年度の実績
⑧	合格率	④/③	50.5%	54.2%	82.5%	92.1%	94.4%	85.8%	
⑨	実質倍率	③/④	1.98	1.84	1.21	1.09	1.06	1.16	
⑩	歩留	⑤/④	66.2%	61.0%	44.9%	46.4%	55.5%	55.5%	※令和5年度の実績
⑪	定員充足率	⑤/①	0.99	0.98	0.95	0.69	0.92	1.00	

英語コミュニケーション学科は40人の減員のため、入学定員は210人となる。シミュレーションで想定する志願者数、受験率、歩留は、直近の動向を反映するため、令和5年度の実績値を用いる。

シミュレーションの結果、増員後の入学定員充足率1.00確保に必要な合格者数は、述べ人数で567人、実人数で379人となる。合格率で見た場合では、述べ人数で83.2%、実人数で85.8%となる。英語コミュニケーション学科は直近の入学者選抜において、合格率が過度に高くなり、適切な選抜が危うい状況にあった。減員を行うことで、合格率を是正し、入学者選抜を適正に実行していくことができると思う。

以上のとおり、過去の入学志願動向に基づいたシミュレーションによって、両学科の入学者選抜を問題なく行える見込みが確認できた。

最後に、改めて定員設定の理由を述べる。①増員後の学科において十分に学生

確保が見込めること、②増員後の学科において教育内容の質を維持した上で運営できること、③変更後の定員で適正な入学者選抜ができること、これらを踏まえ、今回の収容定員変更では、経済学科は入学定員を 475 人から 515 人へと増員、英語コミュニケーション学科は入学定員を 250 人から 210 人へと減員することとした。

添付資料

(学生の確保の見通し等を記載した書類)

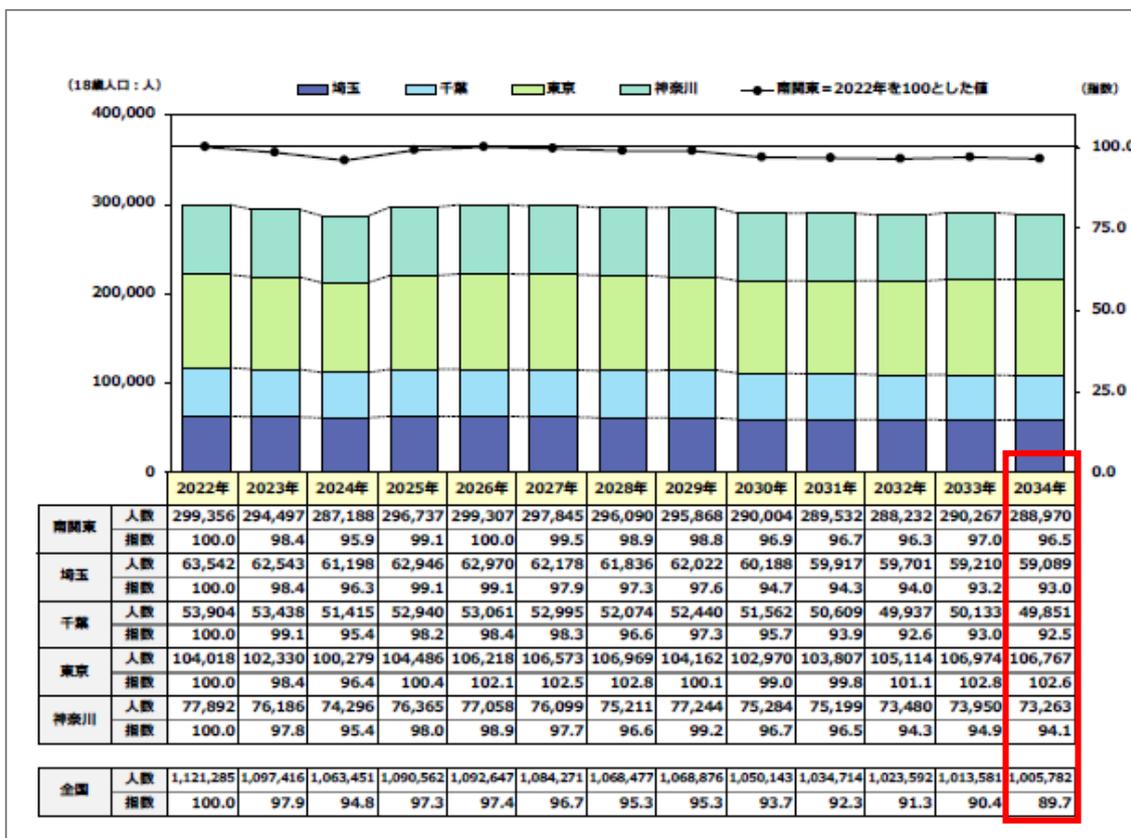
東京国際大学



目次

資料 1.	18 歳人口予測.....	3
資料 2.	日本への留学生数の推移.....	4
資料 3.	出身地域別留学生数.....	5
資料 4.	世界人口の推移.....	6
資料 5.	各組織の定員充足状況.....	7
資料 6.	学生募集活動の実績（日本）.....	8
資料 7.	受験時の情報源、影響度.....	9
資料 8.	学生募集活動の実績（海外）.....	10
資料 9.	大学生活で力を入れたいこと.....	11
資料 10.	競合校との比較.....	12
資料 11.	英語のみで学位が取得できる大学一覧.....	13
資料 12.	競合校の入学志願動向.....	14
資料 13.	外国人材の需給推計.....	15

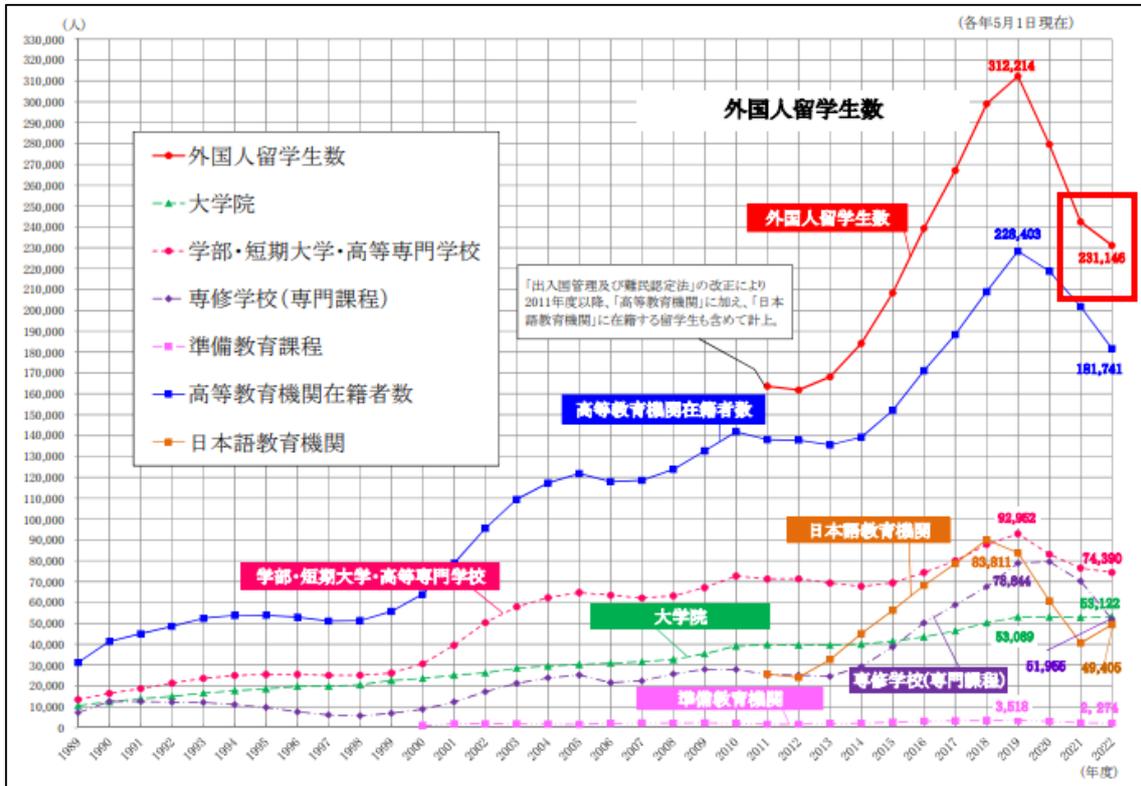
資料1. 18歳人口予測



リクルート進学総研

「マーケットレポート 2022 : 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」

資料2. 日本への留学生数の推移



日本学生支援機構「2022（令和4）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」

資料3. 出身地域別留学生数

地域名	留学生数	構成比
アジア	214,858人 (230,550)	93.0% (95.1)
欧州	8,583人 (5,622)	3.7% (2.3)
アフリカ	2,273人 (2,005)	1.0% (0.8)
北米	1,972人 (1,432)	0.9% (0.6)
中南米	1,819人 (1,337)	0.8% (0.6)
中東	1,143人 (1,077)	0.5% (0.4)
大洋州	491人 (413)	0.2% (0.2)
その他 (無国籍)	7人 (8)	0.0% (0.0)
計	231,146人 (242,444)	100.0% (100.0)

()内は2021年5月1日現在の数

日本学生支援機構「2022（令和4）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」

資料4. 世界人口の推移

第2章 人口

2-1 世界人口の推移（1950～2050年）

年次	世界 (100万人)							先進国 (%)	開発途上国 (%)	日本 b (1,000人)	年平均増減率 (%)	
	アジア	北アメリカ a	南アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア	世界				日本	
1950	2,499	1,379	162	168	550	228	13	32.3	67.7	84,115
1955	2,746	1,533	177	192	576	254	14	31.1	68.9	90,077	2.2	1.4
1960	3,019	1,700	194	220	606	284	16	30.0	70.0	94,302	2.2	0.9
1965	3,337	1,902	209	252	634	321	18	28.7	71.3	99,209	2.4	1.0
1970	3,695	2,146	222	287	657	365	19	27.0	73.0	104,665	2.5	1.1
1975	4,069	2,396	235	323	677	418	22	25.6	74.4	111,940	2.4	1.4
1980	4,444	2,636	248	362	693	482	23	24.2	75.8	117,060	2.1	0.9
1985	4,862	2,911	261	402	708	556	25	22.8	77.2	121,049	2.2	0.7
1990	5,316	3,211	276	443	721	638	27	21.5	78.5	123,611	2.2	0.4
1995	5,743	3,484	295	483	727	724	29	20.4	79.6	125,570	1.8	0.3
2000	6,149	3,736	313	523	727	819	31	19.4	80.6	126,926	1.6	0.2
2005	6,558	3,980	329	558	729	928	34	18.5	81.5	127,768	1.5	0.1
2006	6,641	4,028	332	565	730	952	34	18.3	81.7	127,901	1.3	0.1
2007	6,726	4,076	336	571	731	976	35	18.1	81.9	128,033	1.3	0.1
2008	6,812	4,124	339	578	733	1,002	36	18.0	82.0	128,084	1.3	0.0
2009	6,898	4,172	342	584	735	1,028	36	17.8	82.2	128,032	1.3	-0.0
2010	6,986	4,221	345	591	736	1,055	37	17.7	82.3	128,057	1.3	0.0
2011	7,073	4,270	348	597	738	1,083	38	17.5	82.5	127,834	1.3	-0.2
2012	7,162	4,318	351	604	739	1,111	38	17.4	82.6	127,593	1.3	-0.2
2013	7,251	4,366	355	610	740	1,140	39	17.2	82.8	127,414	1.2	-0.1
2014	7,339	4,414	358	617	741	1,170	40	17.1	82.9	127,237	1.2	-0.1
2015	7,427	4,459	360	623	742	1,201	40	16.9	83.1	127,095	1.2	-0.1
2016	7,513	4,504	363	629	743	1,232	41	16.8	83.2	127,042	1.2	-0.0
2017	7,600	4,548	366	635	744	1,263	42	16.7	83.3	126,919	1.1	-0.1
2018	7,684	4,590	369	641	745	1,295	43	16.5	83.5	126,749	1.1	-0.1
2019	7,765	4,629	372	647	746	1,328	43	16.4	83.6	126,555	1.1	-0.2
2020	7,841	4,664	374	652	746	1,361	44	16.3	83.7	126,146	1.0	-0.3
2021	7,909	4,695	375	656	745	1,394	44	16.1	83.9	125,502	0.9	-0.5
2022	7,975	4,723	377	660	744	1,427	45	16.0	84.0	124,310	0.8	-0.9
2023	8,045	4,753	379	665	742	1,460	46	15.9	84.1	123,751	0.9	-0.5
2024	8,119	4,785	381	670	742	1,495	46	15.7	84.3	123,161	0.9	-0.5
2025	8,192	4,816	383	675	741	1,530	47	15.6	84.4	122,544	0.9	-0.5
2030	8,546	4,959	393	698	737	1,711	49	15.0	85.0	119,125	1.0	-0.6
2035	8,879	5,079	403	717	730	1,899	52	14.4	85.6	115,216	0.9	-0.7
2040	9,188	5,176	411	732	723	2,093	54	13.9	86.1	110,919	0.8	-0.8
2045	9,468	5,249	417	743	714	2,290	56	13.5	86.5	106,421	0.7	-0.8
2050	9,709	5,293	421	749	703	2,485	58	13.0	87.0	101,923	0.6	-0.9

a アメリカ合衆国、カナダ、グリーンランド、サンピエール島・ミクロン島及びバミューダ島のみの合計。
b 総務省統計局「国勢調査結果」、「人口推計」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」による。

-14-

総務省統計局「世界の統計2023」

資料5. 各組織の定員充足状況

	入学定員 (人)	収容定員 (人)	平均入学定員超過率 (倍)		収容定員充足率 (倍)	
				控除後		控除後
商学部						
商学科	100	400	0.75	-	0.76	-
経営学科	160	480	0.95	-	1.01	0.99
経済学部						
経済学科	475	1860	1.11	1.11	0.98	-
言語コミュニケーション学部						
英語コミュニケーション学科	250	980	0.84	-	0.83	-
国際関係学部						
国際関係学科	310	1205	1.08	1.08	0.93	-
国際メディア学科	60	240	0.81	-	0.77	-
医療健康学部						
理学療法学科	80	240	0.94	-	0.87	-
人間社会学部						
福祉心理学科	45	140	0.94	-	0.92	-
人間スポーツ学科	245	935	0.89	-	0.91	-
スポーツ科学科	210	810	1.08	1.07	0.99	-

※「平均入学定員充足率」は令和5年度から過去4年間の平均／「収容定員充足率」は令和5年度5月1日時点

資料6. 学生募集活動の実績（日本）

< オープンキャンパス（対面、Web） >

		令和2	令和3	令和4
①	参加者数	2,021	2,256	2,359
②	うち志願者数（延べ数）	1,001	1,100	1,154
③	うち入学者数	805	906	981
④	参加者中の入学者比率	③/①	39.8	40.2
			41.6	

< 高校訪問（進路指導部等への説明） >

		令和2	令和3	令和4
①	訪問高校数	760	797	858
②	訪問高校からの志願者数（延べ数）	4,330	3,803	3,611
③	訪問高校からの入学者数	931	875	1,100
④	訪問高校あたりの入学者数	③/①	1.2	1.1
			1.3	

< 高校模擬授業 >

		令和2	令和3	令和4
①	実施高校数	7	2	19
②	参加者数	223	115	616

< 高校内ガイダンス >

		令和2	令和3	令和4
①	実施高校数	67	149	171
②	参加者数	1,610	2,575	2,552

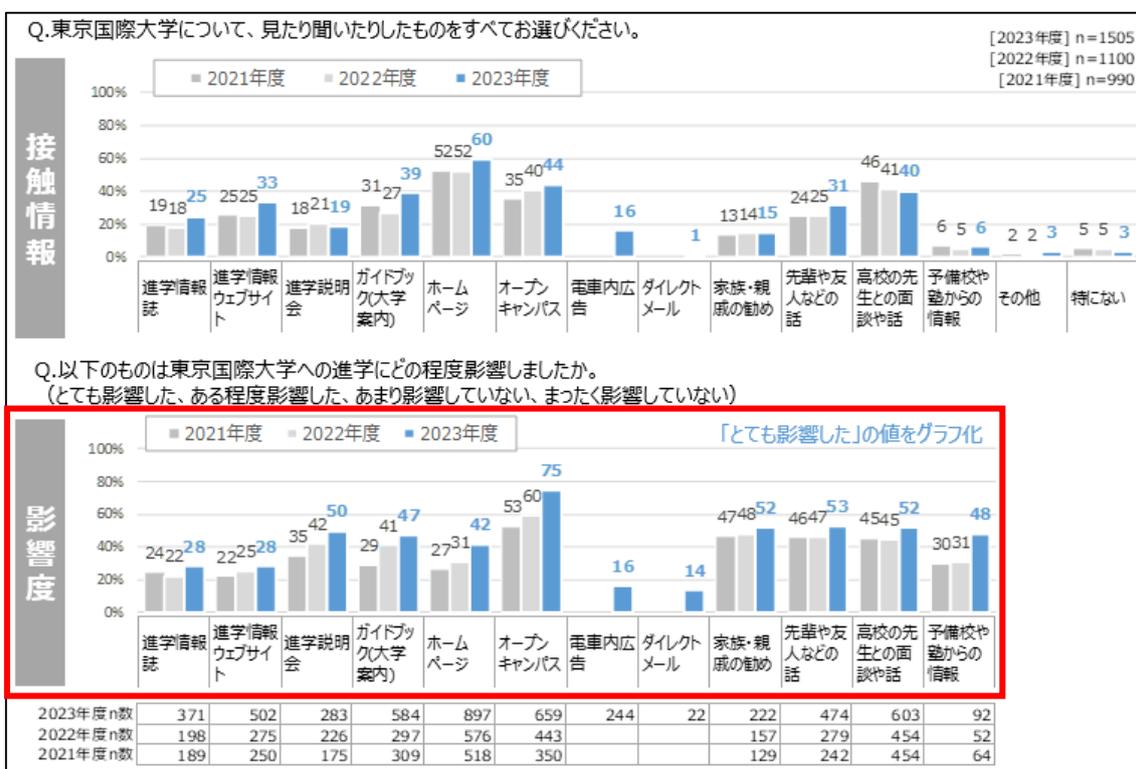
< 進学ガイダンス >

実施年度		令和2	令和3	令和4
①	実施会場数	13	22	25

< 大学案内・資料請求 >

実施年度		令和2	令和3	令和4
①	資料請求数		40,650	43,477

資料7. 受験時の情報源、影響度



東京国際大学 新入生調査 2023 より

資料8. 学生募集活動の実績（海外）

< ウェビナー（模擬授業、同窓生パネルディスカッション等） >

		令和2	令和3	令和4
①	実施回数		14	14
②	参加者数		947	774
③	うち志願者数（延べ数）		207	400
④	うち入学者数		126	285
④	参加者中の入学者比率	③/①	13.3	36.8

< 留学フェア >

		令和2	令和3	令和4
①	実施国数	5	5	5
②	実施回数	37	53	69

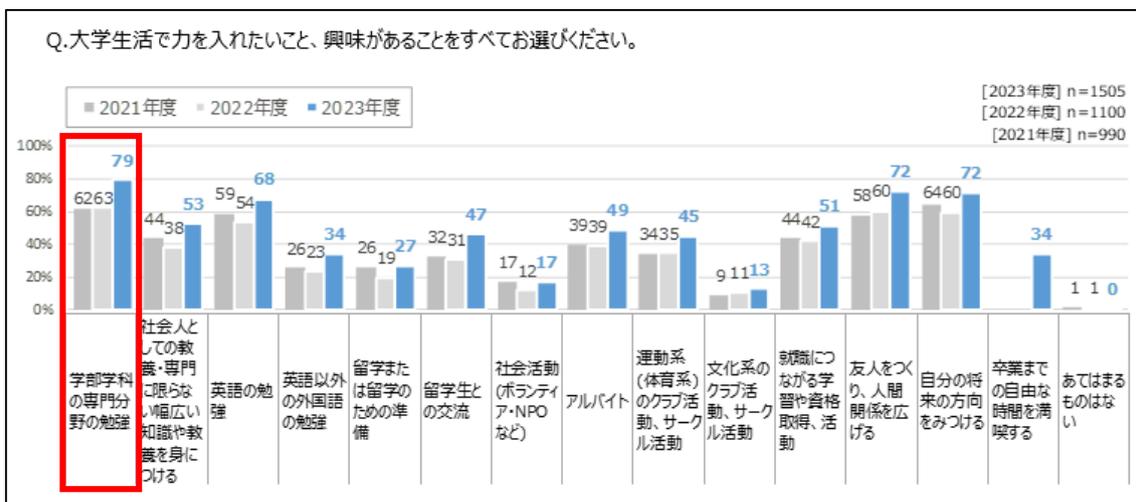
< 高校主催フェア、説明会 >

		令和2	令和3	令和4
①	実施国数	5	5	5
②	実施回数	196	207	284

< 高校訪問（進路カウンセラー等への説明） >

		令和2	令和3	令和4
①	実施国数	92	25	40
②	実施回数	37	53	69

資料9. 大学生活で力を入れたいこと



東京国際大学 新入生調査 2023 より

資料10. 競合校との比較

他大学の項目は、東京国際大学よりも低いもの・実施していないものを青く色づけている。

		東京国際	帝京	東洋	拓殖	大東文化	日本	獨協	神田外語
THE日本 大学ラン キング	総合スコア	43.4-43.9	42.2-43.3	49.7	34.7-41.0	20.1-34.6	41.1-42.1	46.2-46.9	56.2
	教育リソース	-	31.2	22.0-31.0	-	-	22.0-31.0	-	22.0-31.0
	教育充実度	60.2	62.6	74.1	48.9-56.1	48.9-56.1	69.6	75.4	84.7
	教育成果	15.6-26.3	33.8	32.9	26.6	15.6-26.3	33.0	40.0	30.8
	国際性	88.0	41.9	72.6	68.8	41.0	27.7-40.5	54.4	80.0
教育 支援	入学前教育	○	○	△	○	○	○	○	○
	オフィスアワー	○	○	○	○	○	○	○	○
	チュードント・アシスタント	○	△	○	△	×	△	×	○
	日本語ライティングセンター	×	×	△	×	○	×	×	○
	外国語ライティングセンター	○	×	○	×	×	×	×	○
留学 支援	交換留学有無	○	△	○	○	○	○	○	△
	留学支援金支給	○	△	○	○	○	○	○	○
就職 支援	インターンシップ単位認定	○	△	○	△	△	△	○	△
	就職課(キャリアセンター)職員数	23	26	43	16	14	65	9	13
	大学全体の収容定員(学部生)	7,290	22,952	29,024	8,951	11,300	66,803	7,020	3,901
	就職課職員一人あたりの学生数	317	883	675	559	807	1,028	780	300
	取得可能資格	中学校教諭一種・高等学校教諭一種	中学校教諭一種・高等学校教諭一種・学校図書館司書教諭一種(資格)・司書(資格)・学芸員(資格)	中学校教諭一種・高等学校教諭一種・学校図書館司書教諭一種(資格)・司書(資格)・社会教育主事(資格)・学芸員(資格)・社会福祉主事(資格)	中学校教諭一種・高等学校教諭一種	中学校教諭一種・学校図書館司書教諭一種(資格)・司書(資格)・学芸員(資格)	中学校教諭一種・高等学校教諭一種	中学校教諭一種・高等学校教諭一種・学校図書館司書教諭一種(資格)・司書(資格)	中学校教諭一種・高等学校教諭一種
奨学金 学納金	大学独自の奨学金制度数(給付)	16	9	16	20	7	66	6	7
	大学独自の奨学金制度数(貸与)	0	7	0	0	0	4	0	1
	授業料	850,000	819,000	710,000	792,000	713,000	810,000	760,000	980,000
	初年度納入金	1,440,000	1,351,660	1,190,000	1,310,900	1,214,900	1,240,000	1,352,800	1,445,000

※THE「THE日本大学ランキング2023」、蛍雪時代「2023年度用 大学の真の実力 情報公開BOOK」、大学ホームページより作成

※THE日本大学ランキング指標

教育リソース：どれだけ充実した教育が行われる可能性があるか(学生1人あたりの資金、教員比率など)

教育充実度：どれだけ教育への期待が実現されているか(在籍学生による「授業・指導の充実度」などの評価や、高校教員による「グローバル人材の育成を重視する大学」などの評価)

教育成果：どれだけ卒業生の活躍が期待できるか(企業の人事担当者や大学の研究者による評判調査)

国際性：どれだけ国際的な教育環境になっているか(学生や教員に占める外国人の割合など)

※各種支援 ○：全学部で実施、△：一部学部で実施、×：全学部で実施なし

※他大学の取得可能資格は、本学の経済学科、英語コミュニケーションに競合する学部(経済学部、外国語学部等)で取得可能なもの

資料11. 英語のみで学位が取得できる大学一覧

○【学部段階】「英語による授業」のみで卒業できる(学科等がある)学部 (43大学86学部)

- ・北海道大学 理学部
- ・小樽商科大学 商学部
- ・東北大学 文学部、教育学部、理学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部
- ・筑波大学 生命環境学群
- ・東京大学 理学部、教養学部
- ・東京芸術大学 美術学部
- ・横浜国立大学 教育学部、都市科学部
- ・金沢大学 理工学域
- ・名古屋大学 文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部
- ・京都大学 工学部
- ・広島大学 総合科学部、教育学部、法学部、経済学部、歯学部、薬学部
- ・九州大学 農学部
- ・国際教養大学 国際教養学部
- ・会津大学 コンピュータ理工学部
- ・東京都立大学 理学部
- ・兵庫県立大学 国際商経学部
- ・東京国際大学 経済学部、国際関係学部
- ・明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部
- ・東京基督教大学 神学部
- ・文京学院大学 経営学部
- ・慶應義塾大学 経済学部、総合政策学部、環境情報学部
- ・芝浦工業大学 工学部
- ・上智大学 総合人間科学部、経済学部、総合グローバル学部、国際教養学部、理工学部
- ・中央大学 国際経営学部
- ・東洋大学 国際学部
- ・法政大学 経済学部、経営学部、人間環境学部、グローバル教養学部
- ・明治大学 国際日本学部
- ・明治学院大学 国際学部
- ・早稲田大学 政治経済学部、文化構想学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、社会科学部、国際教養学部
- ・桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群
- ・創価大学 経済学部、国際教養学部
- ・東洋英和女学院大学 人間科学部、国際社会学部
- ・山梨学院大学 国際リベラルアーツ学部
- ・中京大学 国際学部
- ・名古屋商科大学 経営学部、国際学部
- ・同志社大学 国際教育インスティテュート
- ・立命館大学 国際関係学部、情報理工学部、グローバル教養学部
- ・明治国際医療大学 看護学部
- ・関西外国語大学 英語キャリア学部、外国語学部、英語国際学部
- ・羽衣国際大学 現代社会学部、人間生活学部
- ・関西学院大学 国際学部
- ・立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部、国際経営学部
- ・宮崎国際大学 国際教養学部

文部科学省「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について」

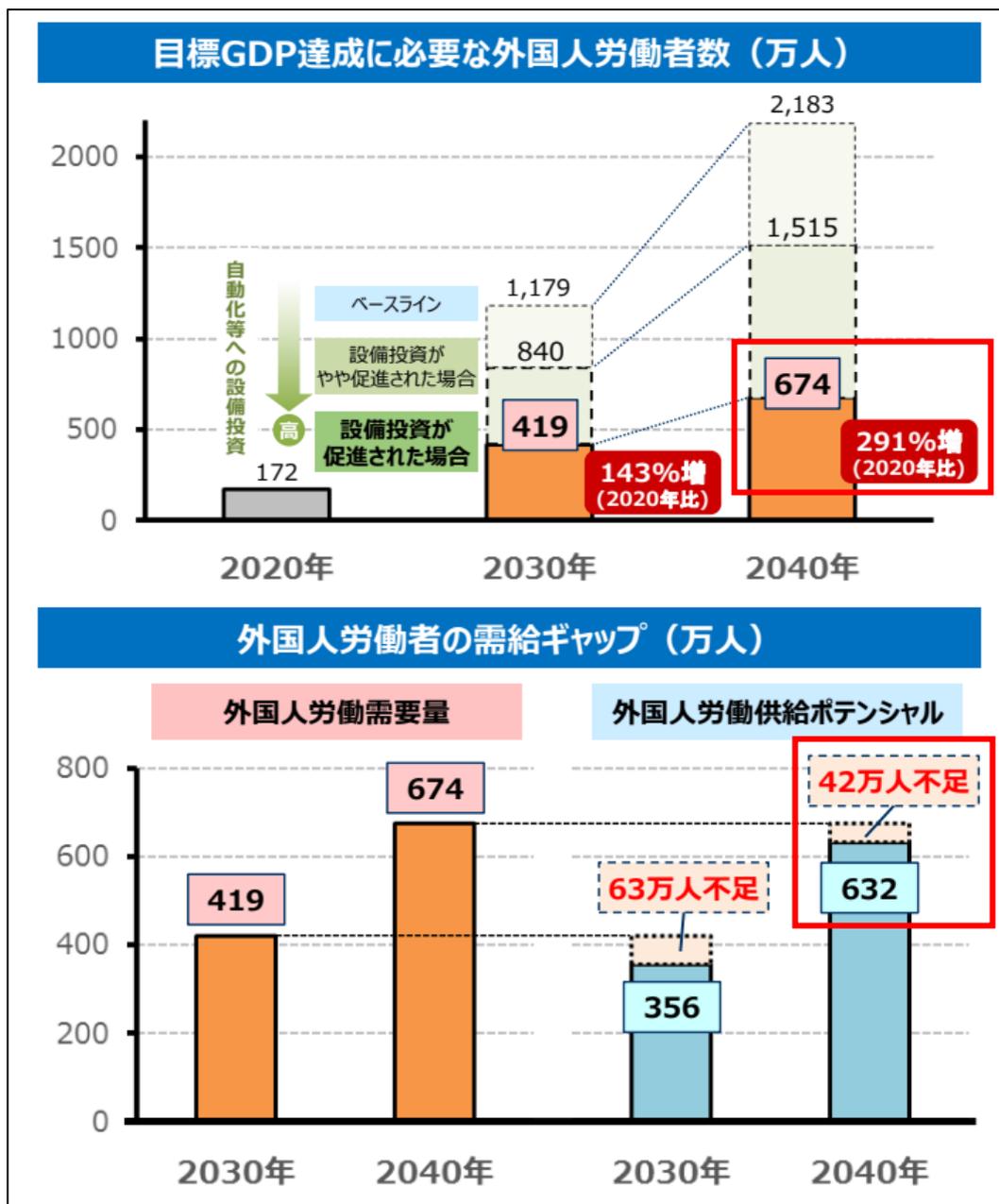
資料12. 競合校の入学志願動向

大学	学部	学科	入学定員			志願者数			合格者数			入学者数			入学定員充足率		
			令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4	令和2	令和3	令和4
大東文化	経済	現代経済	165	165	165	2100	2019	1912	710	856	855	164	170	167	0.99	1.03	1.01
帝京	経済	経済	550	550	550	4423	3520	3356	1266	1295	1462	539	502	612	0.98	0.91	1.11
日本	経済	経済	916	916	916	9935	9105	8449	2892	3358	3029	NA	945	977	NA	1.03	1.07
東洋	経済	経済	250	250	250	5113	5430	5857	1363	1375	1582	257	249	248	1.03	1.00	0.99
拓殖	政経	経済	450	473	473	2342	1458	1084	501	411	456	455	473	507	1.01	1.00	1.07
獨協	外国語	英語	250	250	250	2998	2476	2434	753	806	869	270	279	308	1.08	1.12	1.23
神田外語	外国語	英米語学	400	340	340	3181	2646	2060	1061	883	989	NA	NA	379	NA	NA	1.11
東洋	文	国際文化コミュニケーション	100	100	100	1691	1289	1413	320	336	443	102	105	104	1.02	1.05	1.04
帝京	外国語	外国語	300	300	250	2468	1979	1516	680	696	533	286	294	309	0.95	0.98	1.24
拓殖	外国語	英米語学	130	130	130	768	496	354	230	269	268	119	113	110	0.92	0.87	0.85

※各大学ホームページ、旺文社「パスナビ」から作成

※拓殖大学の志願者数、合格者数については、公開されている一部入試（一般選抜、共通テスト利用選抜等）結果のみの数値

資料13. 外国人材の需給推計



国際協力機構 (JICA)、価値総合研究所「2030/40年の外国人との共生社会の実現に向けた調査研究」

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	アサノ ヨシハル 浅野 善治 <令和4年4月>		学士 (法学)		東京国際大学 学長 (令和4年4月～令和7年3月)